

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2026年7月から9月
2. 調査対象：小樽市内の企業252社
3. 内 訳：製造業54、卸売業24、小売業40、運輸・倉庫業20、観光業44
サービス業39、建設業31
4. 回答企業数：124社（49.2%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

一 売上DIは2期連続のプラス水準であったが、業況DIは2期連続、採算DIは6期連続のマイナス水準に—
前年同期（2025年7月～9月）と比べた今期（2026年7月～9月）の状況
今期と比べた来期（2026年10月～12月）の予想

全業種における企業の景況感を示す業況判断DIは▲3.0で、前年同期比で4.6ポイント上昇しました。主要3項目のうち、売上DIは2期連続のプラス水準となりましたが、業況DIは2期連続、採算DIは6期連続のマイナス水準となりました。来期の業況DIは10.2ポイント低下しマイナス水準、売上DIはプラス水準、採算DIはマイナス水準になると予想されています。

製造業では、売上DIが前年同期比26.9ポイント上昇の26.9、採算DIは同29.1ポイント上昇の7.7、業況DIは同10.7ポイント上昇の0となり、採算DIはプラスに転じました。また、製造業の回答数28社のすべてが原材料仕入単価が上昇したと回答しました。

卸売業では、売上DIが同28.7ポイント上昇の21.5、採算DIは同14.4ポイント上昇の▲7.1、業況DIは同14.4ポイント上昇の▲7.1となり、売上DIはプラスに転じました。

小売業では、売上DIが同13.1ポイント上昇の▲18.2、採算DIは同22.7ポイント上昇の▲27.3、業況DIは同2.3ポイント低下の▲27.3となりました。

運輸・倉庫業では、売上DIが同20.8ポイント低下の12.5、採算DIは同26.4ポイント低下の▲7.7、業況DIは同20.2ポイント低下の▲7.7となり、業況DIと採算DIはマイナスに転じました。

観光業では、売上DIが同23.3ポイント上昇の40.0、採算DIは同9.0ポイント上昇の▲16.0、業況DIは同16.3ポイント上昇の8.0となり、業況DIはプラスに転じました。

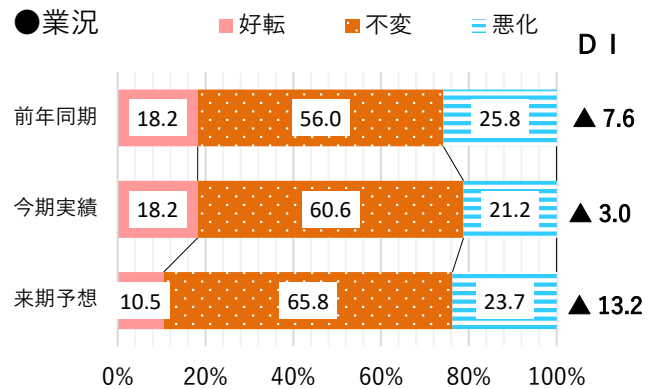
サービス業では、売上DIは同2.5ポイント上昇の37.5、採算DIは同27.5ポイント低下の▲12.5、業況DIは同3.8ポイント上昇の18.8となり、採算DIはマイナスに転じました。

建設業では、売上DIが同53.6ポイント上昇の23.6、採算DIは同19.2ポイント上昇の▲5.8、業況DIは同9.2ポイント上昇の▲5.8となり、売上DIは50ポイント以上の大幅な上昇でプラスに転じました。

業況、売上、採算

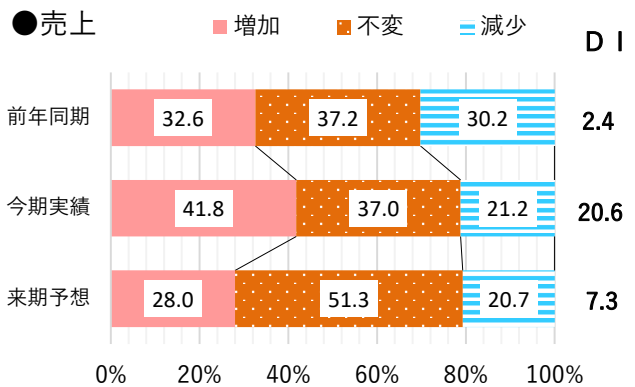
今期（2026.7～9）の業況DIは▲3.0で、前年同期（2025.7～9）と比べ4.6ポイント上昇しました。

来期（2026.10～12）の業況DIは▲13.2で、今期（2026.7～9）と比べ10.2ポイント低下すると予想しています。



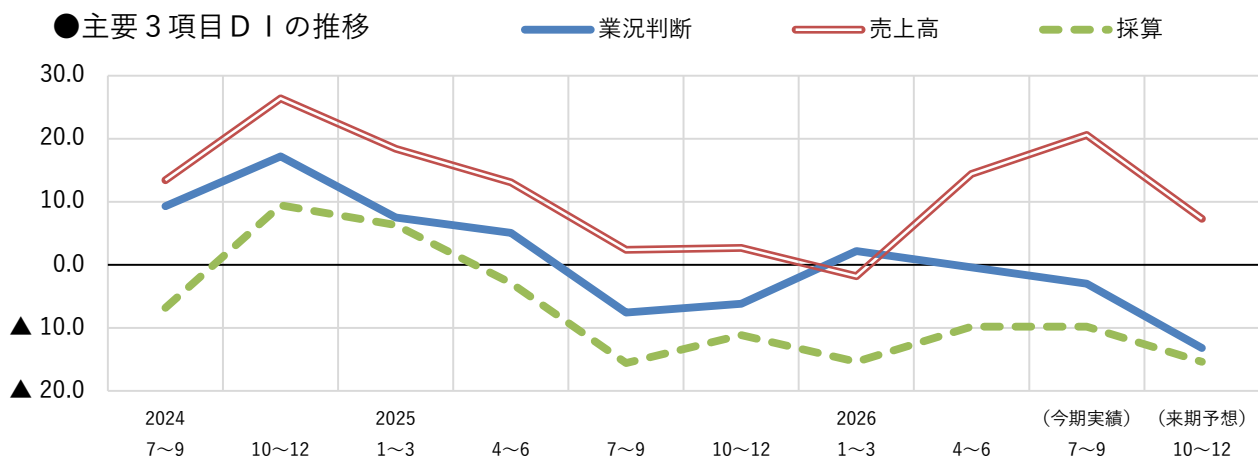
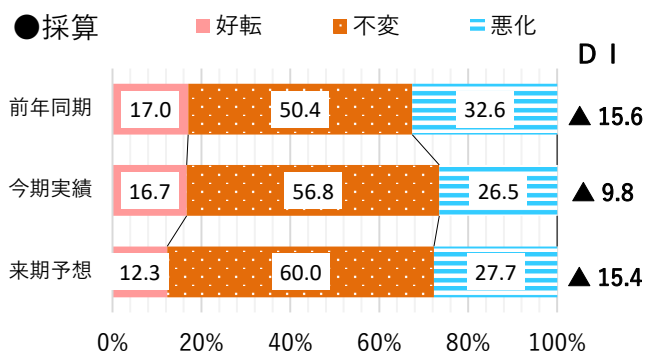
今期の売上DIは20.6で、前年同期と比べ18.2ポイント上昇しました。

来期の売上DIは7.3で、今期と比べ13.3ポイント低下すると予想しています。



今期の採算DIは▲9.8で、前年同期と比べ5.8ポイント上昇しました。

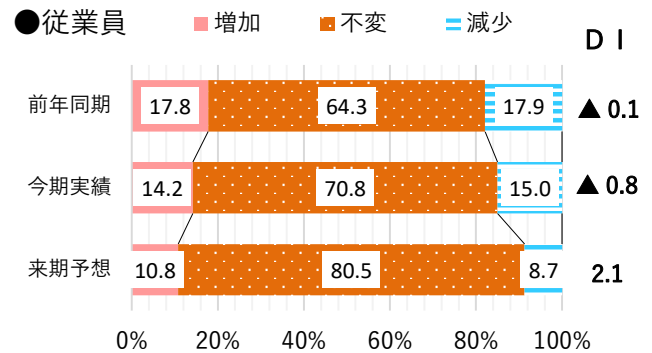
来期の採算DIは▲15.4で、今期と比べ5.6ポイント低下すると予想しています。



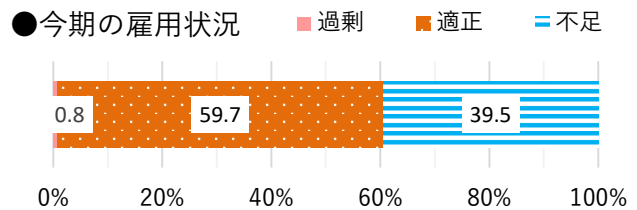
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲0.8で、前年同期と比べ0.7ポイント低下しました。

来期の従業員DIは2.1で、今期と比べ2.9ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は0.8%、適正であると回答した企業の割合は59.7%、不足していると回答した企業の割合は39.5%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、47.6%を占めました。

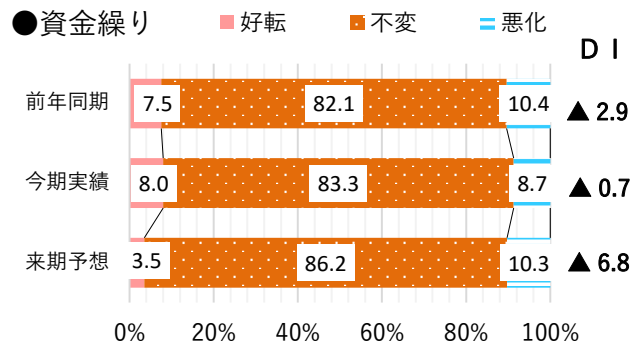
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	7.3%
	不足	8.1%
不変だった	過剰	0.8%
	適正	47.6%
	不足	20.2%
減少した	過剰	0%
	適正	4.8%
	不足	11.3%

※回答総数124社

資金繰り、設備投資

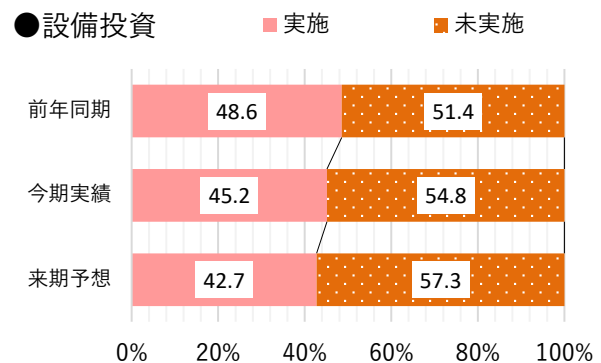
今期の資金繰りDIは▲0.7で、前年同期と比べ2.2ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは▲6.8で、今期と比べ6.1ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は45.2%が実施と回答し、前年同期と比べ3.4%低下しました。投資内容は、1位が「車両・輸送機材」、2位が「付帯施設」でした。

来期は42.7%が設備投資を計画していると回答しています。

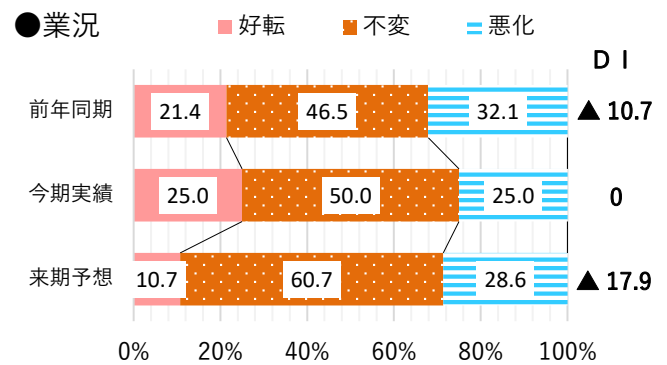


製造業

業況、売上、採算

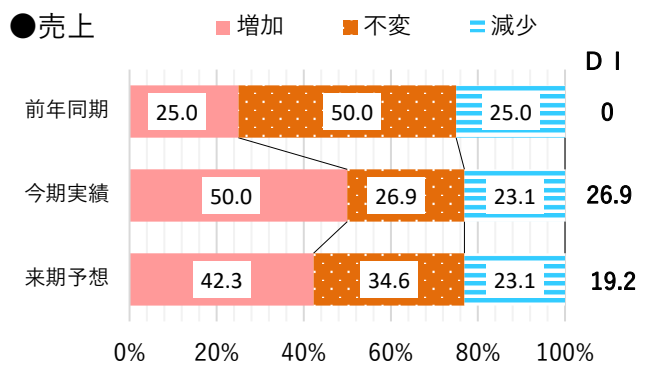
今期（2026.7～9）の業況DIは0で、前年同期（2025.7～9）と比べ10.7ポイント上昇しました。

来期（2026.10～12）の業況DIは▲17.9で、今期（2026.7～9）と比べ17.9ポイント低下すると予想しています。



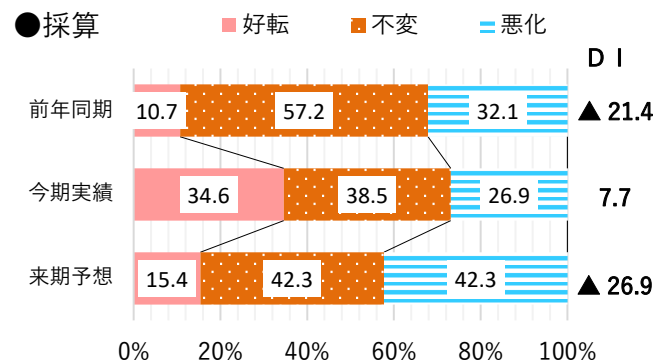
今期の売上DIは26.9で、前年同期と比べ26.9ポイント上昇しました。

来期の売上DIは19.2で、今期と比べ7.7ポイント低下すると予想しています。

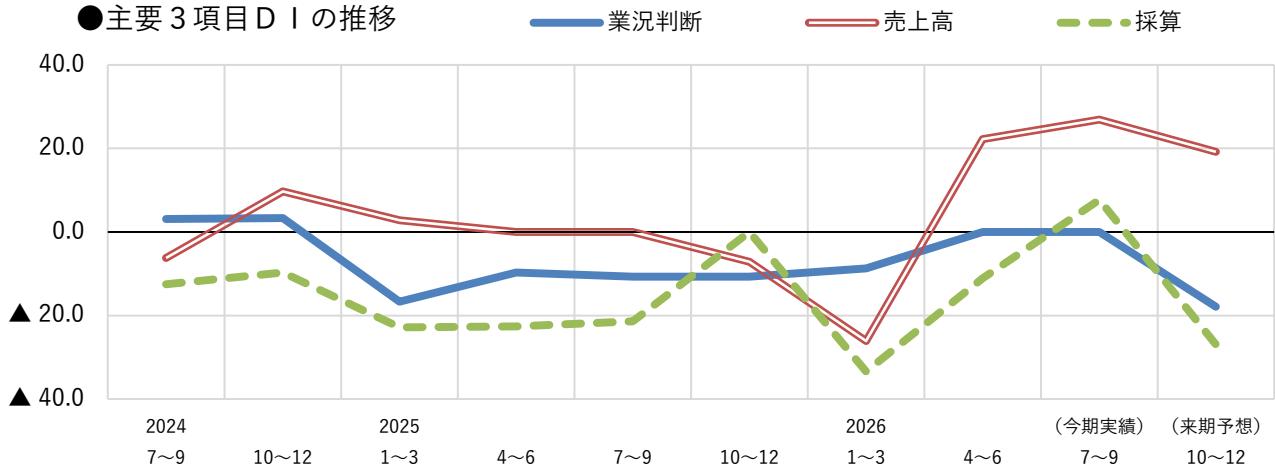


今期の採算DIは7.7で、前年同期と比べ29.1ポイント上昇しました。

来期の採算DIは▲26.9で、今期と比べ34.6ポイント低下すると予想しています。



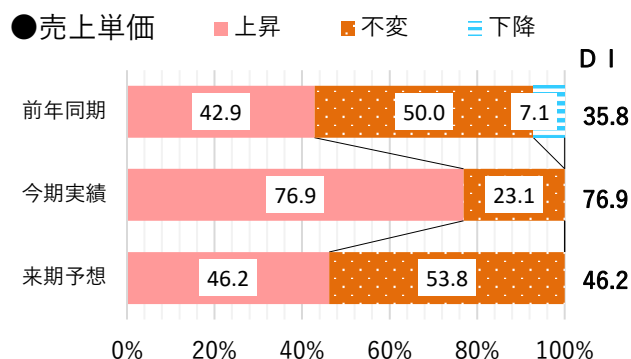
●主要3項目D Iの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

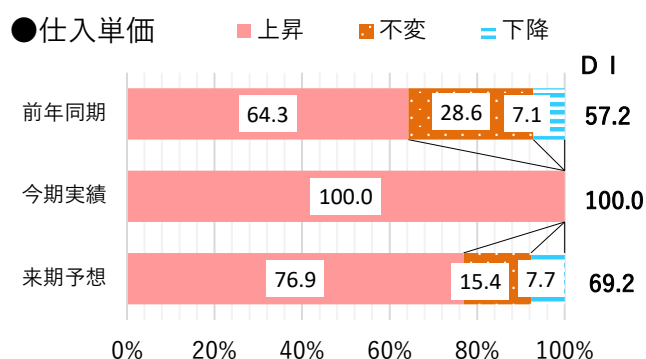
今期の売上単価DIは76.9で、前年同期と比べ41.1ポイントと大幅に上昇しました。

来期の売上単価DIは46.2で、今期と比べ30.7ポイント低下すると予想しています。



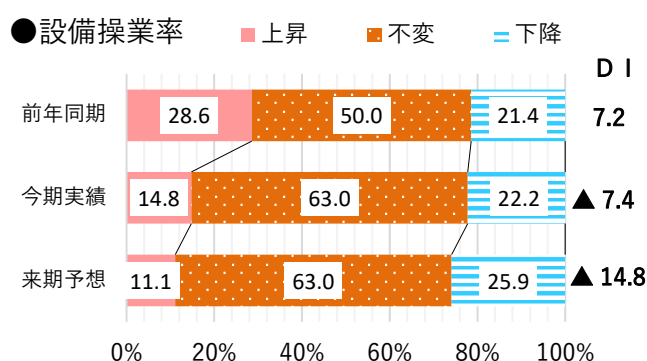
今期の仕入単価DIは100.0で、前年同期と比べ42.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期の仕入単価DIは69.2で、今期と比べ30.8ポイント低下すると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲7.4で、前年同期と比べ14.6ポイント低下しました。

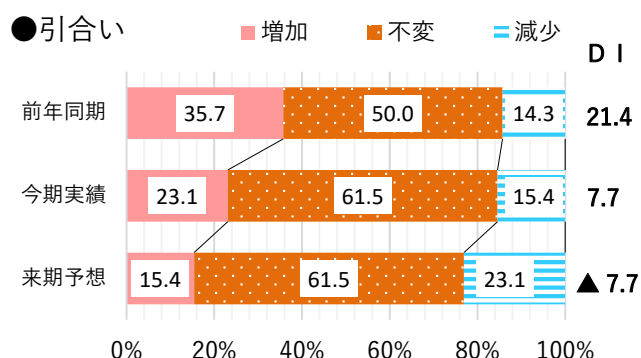
来期の設備操業率DIは▲14.8で、今期と比べ7.4ポイント低下すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは7.7で、前年同期と比べ13.7ポイント低下しました。

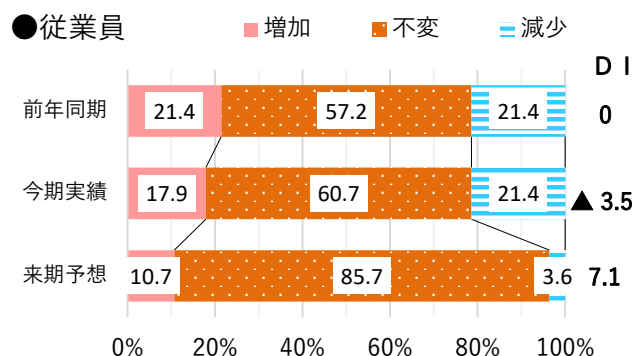
来期の引合いDIは▲7.7で、今期と比べ15.4ポイント低下すると予想しています。



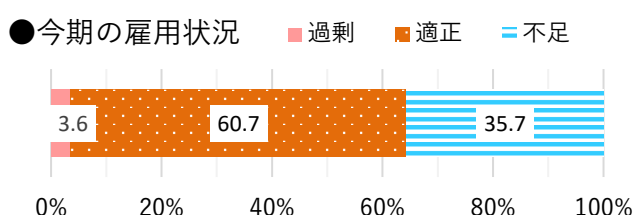
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲3.5で、前年同期と比べ3.5ポイント低下しました。

来期の従業員DIは7.1で、今期と比べ10.6ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は3.6%、適正であると回答した企業の割合は60.7%、不足していると回答した企業の割合は35.7%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、42.9%を占めました。

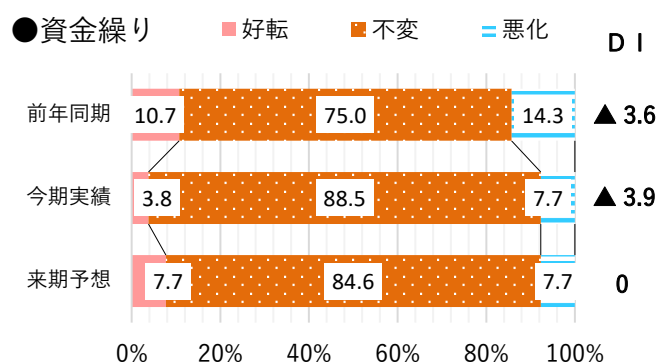
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	10.7%
	不足	7.1%
不変だった	過剰	3.6%
	適正	42.9%
	不足	14.3%
減少した	過剰	0%
	適正	7.1%
	不足	14.3%

回答総数28社

資金繰り、設備投資

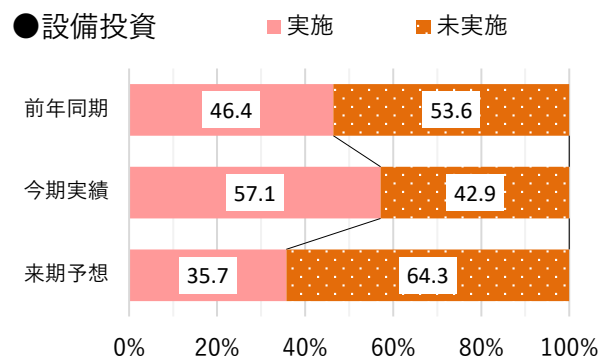
今期の資金繰りDIは▲3.9で、前年同期と比べ0.3ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは0で、今期と比べ3.9ポイント上昇すると予想しています。



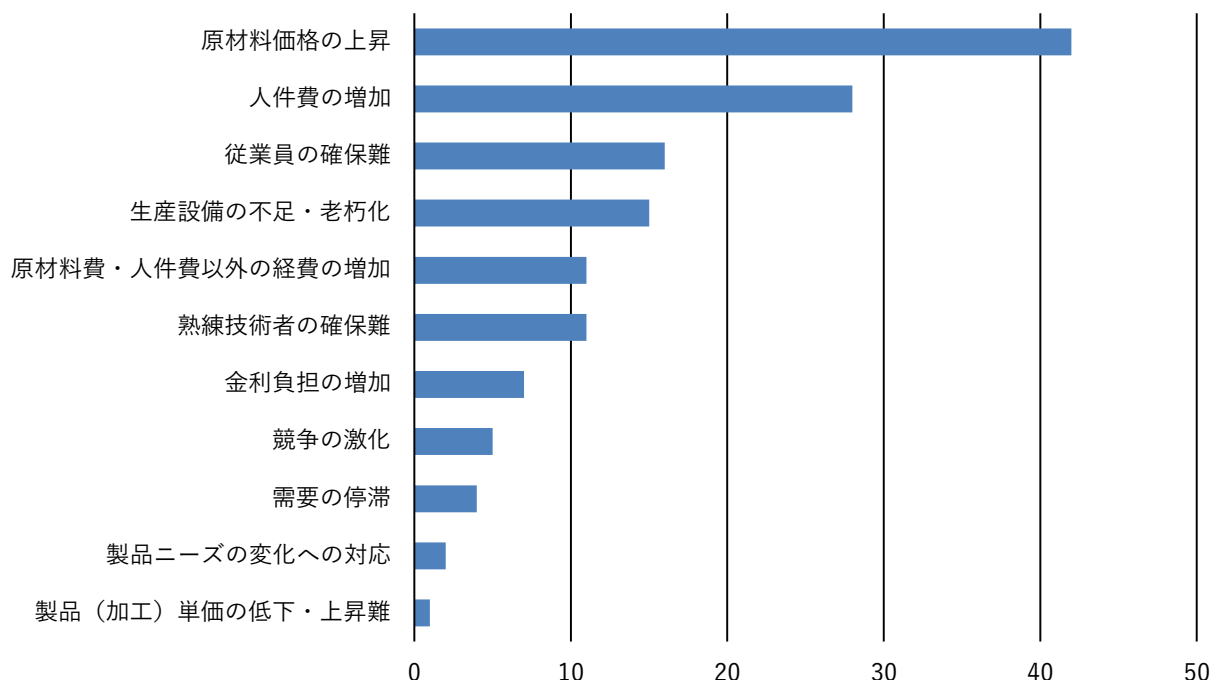
今期の設備投資は57.1%が実施と回答し、前年同期と比べ10.7%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「生産設備」でした。

来期は35.7%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 採算が取れない商品を整理したことで、業況が好転した。（食料品）
- 売上高が伸長し、業況が好転した。（食料品）
- 原材料価格が引き続き上昇しており、主要材料が創業以来の最高値で推移している。（金属製品）
- 遅れていた複数の大型プロジェクトが動き出した。（金属製品）
- 3月以降、原油やナフサ等の確保危機があり、取引先から早めの注文が殺到した。取引先への製品供給責任から高騰した原料や副原料を調達したが、製品の値上げを受け入れてもらったので採算は確保できている。また、早めの注文で工場の稼働率が例年以上に上がり、売上高が上昇した。消費者物価高騰対策と人材確保を意識し例年より賃上げの割合を見直した。（プラスチック）

- ナフサ由来の原材料は4～5月と比べると安定した入荷となったが価格は高止まりしている。原材料不足による仮需要も落ち着いてきた。（プラスチック）
- 販売単価の上昇により売上額が増加したが、原材料費の仕入単価も上昇した。人手不足も解決していない。（プラスチック）
- 仕入価格と人件費の上昇による価格転嫁で、売上額も上昇した。（紙製品）
- 防衛省被服類の加工受注が順調で前期に引き続き採算の好転を見込む。（衣服）
- 売上は増加したが、原材料費や人件費も高騰しているため、業況は不変となった。これから9月と10月が主力事業の履物部門(長靴やスノーブーツ)の法人販売がピークを迎えるため、売上および利益を上げられるかが勝負となる。（ゴム製品）
- 仕入価格と最低賃金の上昇があり、業況が悪化した。（その他繊維製品）

[来期の業況について]

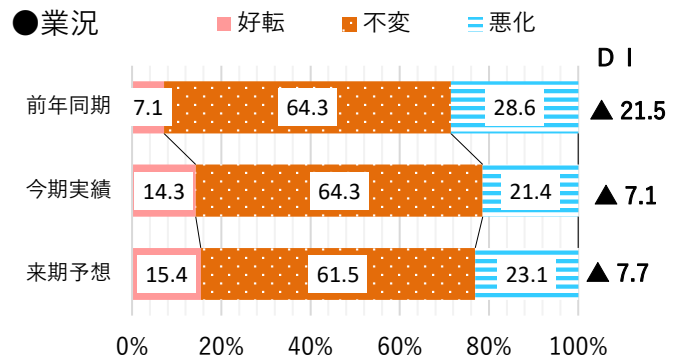
- 複数の大型プロジェクトの本格稼働を見込む。（金属製品）
- 酒税の増税に伴い不安要素はあるが、新酒の発売が売上に好影響をもたらすことを期待する。
（飲料）
- 取引先への納期対策は一段落したが売上高が減少し、それに伴い利益は減少を見込む。原料、副原料価格は徐々に低下すると予想する。人材確保は求人会社を通じて行っていく。（プラスチック）
- 価格転嫁を行い、売上と利益の向上を引き続き目指しているが、昨今は原材料費の高騰や最低賃金の上昇幅が大きくなっていることから釣り合いをとれるか不透明である。（プラスチック）
- 北海道の農産資材は順調だが水産関係の資材は落ち込むと予想している。また、仮需要の反動による受注の減少も考えられる。（プラスチック）
- 価格単価が上昇で販売数量の減少が見込まれ、それによって工場の稼働率低下が予想される。
（プラスチック）
- 不変と予測する。（紙製品）
- 人件費などの経費の増加により業況の悪化を見込む。（その他繊維製品）

卸 売 業

業況、売上、採算

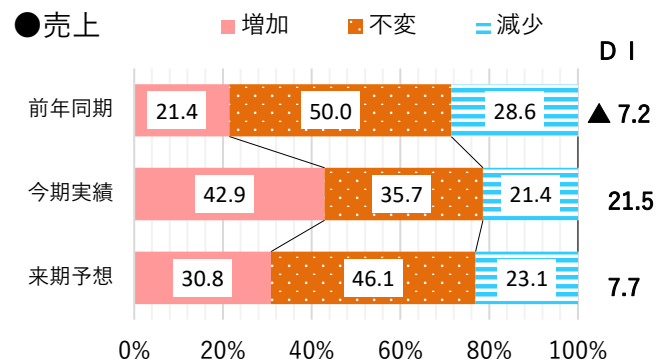
今期（2026.7～9）の業況DIは▲7.1で、前年同期（2025.7～9）と比べ14.4ポイント上昇しました。

来期（2026.10～12）の業況DIは▲7.7で、今期（2026.7～9）と比べ0.6ポイント低下すると予想しています。



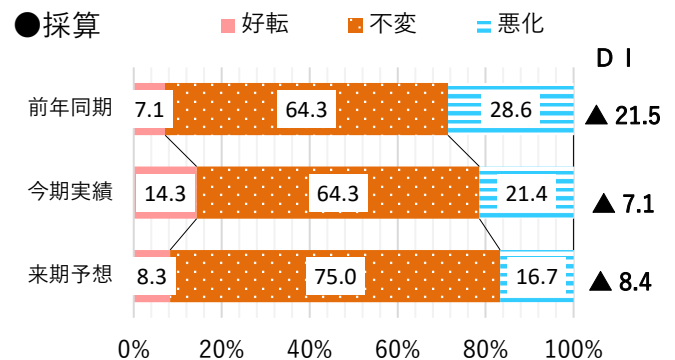
今期の売上DIは21.5で、前年同期と比べ28.7ポイント上昇しました。

来期の売上DIは7.7で、今期と比べ13.8ポイント低下すると予想しています。

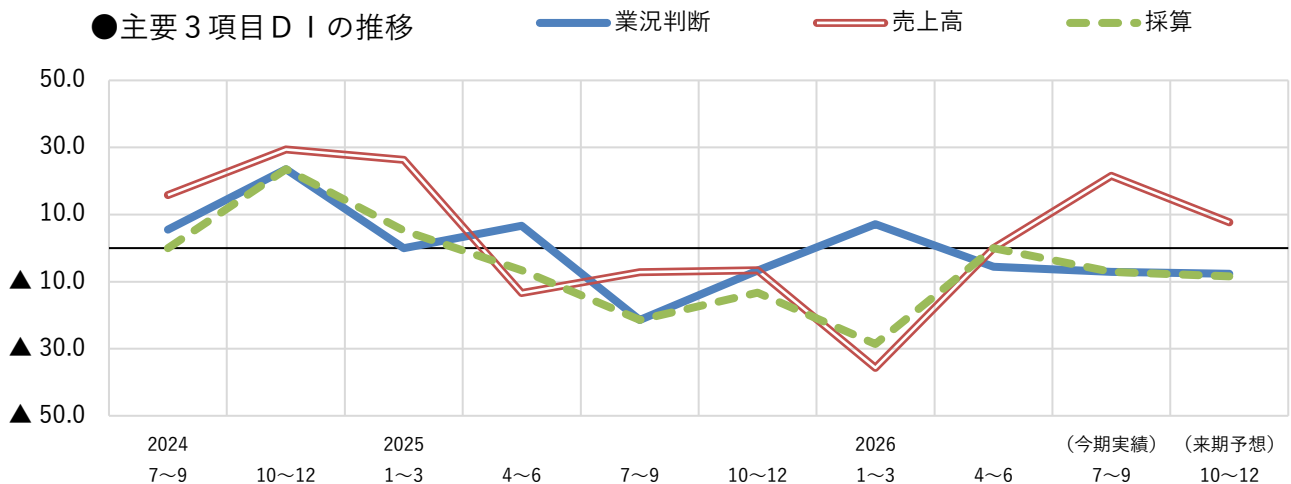


今期の採算DIは▲7.1で、前年同期と比べ14.4ポイント上昇しました。

来期の採算DIは▲8.4で、今期と比べ1.3ポイント低下すると予想しています。



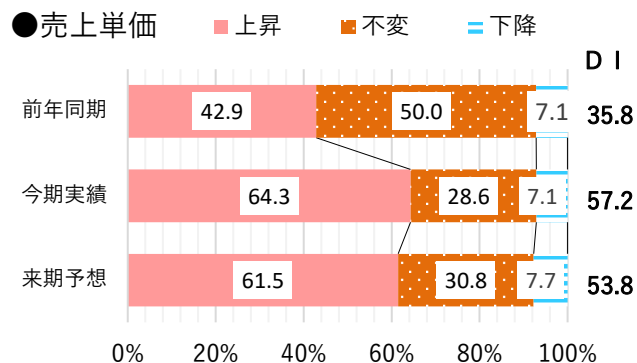
●主要3項目D Iの推移



売上単価、商品仕入単価

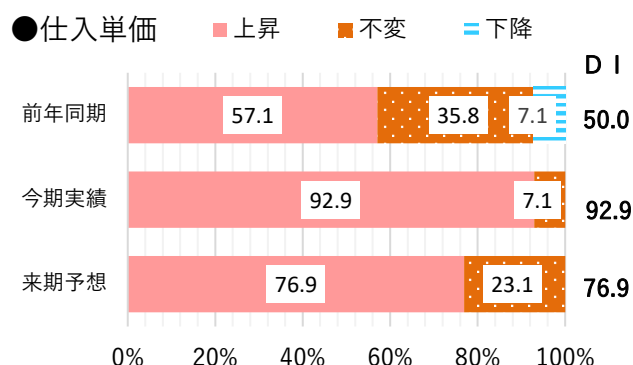
今期の売上単価DIは57.2で、前年同期と比べ21.4ポイント上昇しました。

来期の売上単価DIは53.8で、今期と比べ3.4ポイント低下すると予想しています。



今期の仕入単価DIは92.9で、前年同期と比べ42.9ポイントと大幅に上昇しました。

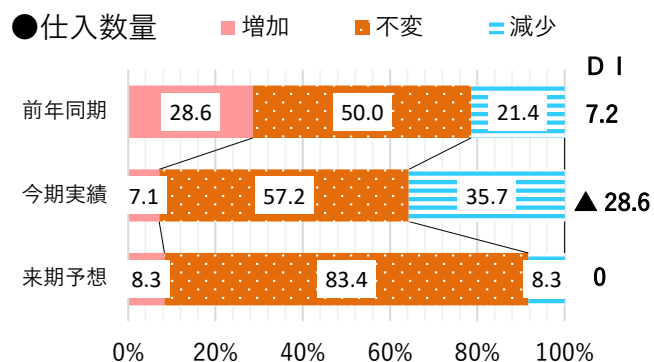
来期の仕入単価DIは76.9で、今期と比べ16.0ポイント低下すると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

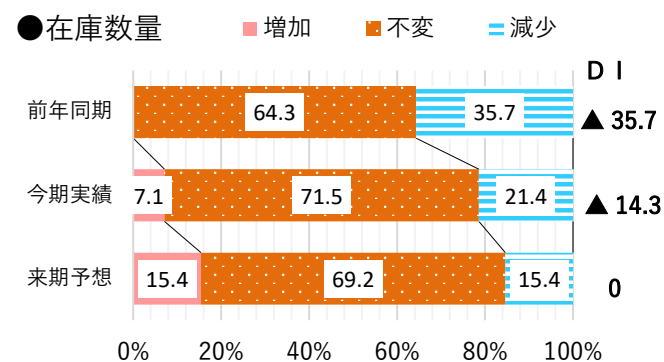
今期の仕入数量DIは▲28.6で、前年同期と比べ35.8ポイントと大幅に低下しました。

来期の仕入数量DIは0で、今期と比べ28.6ポイント上昇すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲14.3で、前年同期と比べ21.4ポイント上昇しました。

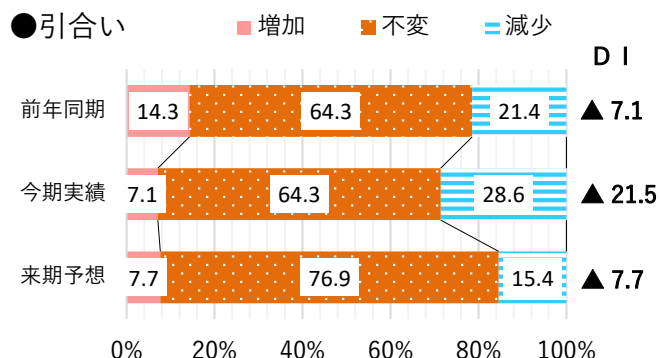
来期の在庫数量DIは0で、今期と比べ14.3ポイント上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲21.5で、前年同期と比べ14.4ポイント低下しました。

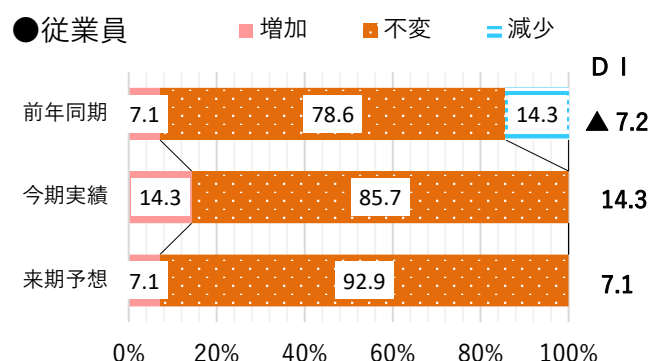
来期の引合いDIは▲7.7で、今期と比べ13.8ポイント上昇すると予想しています。



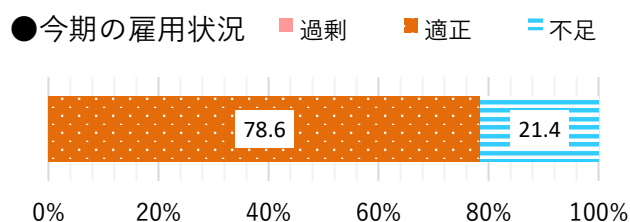
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは14.3で、前年同期と比べ21.5ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは7.1で、今期と比べ7.2ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は78.6%、不足していると回答した企業の割合は21.4%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、78.6%を占めました。

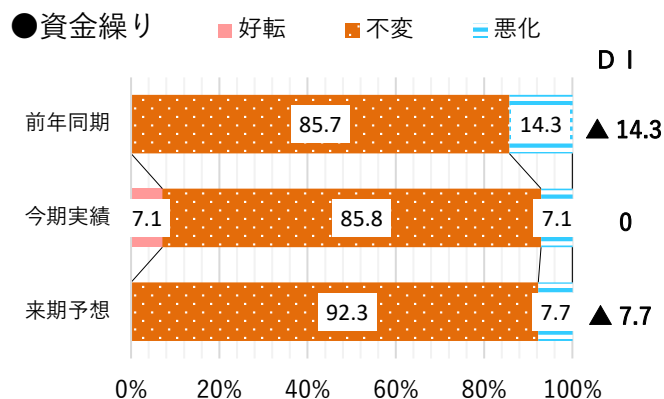
従業員数変化	雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	14.3%
不変だった	過剰	0%
	適正	78.6%
	不足	7.1%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	0%

※回答総数14社

資金繰り、設備投資

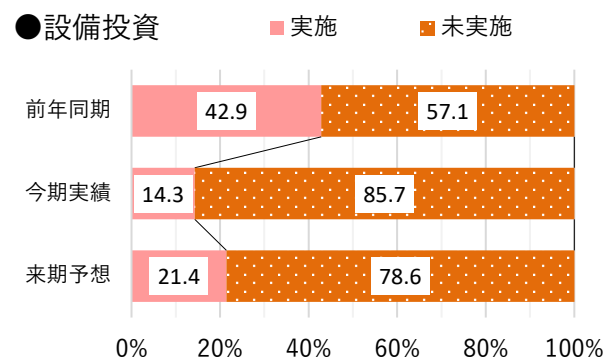
今期の資金繰りDIは0で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは▲7.7で、今期と比べ7.7ポイント低下すると予想しています。



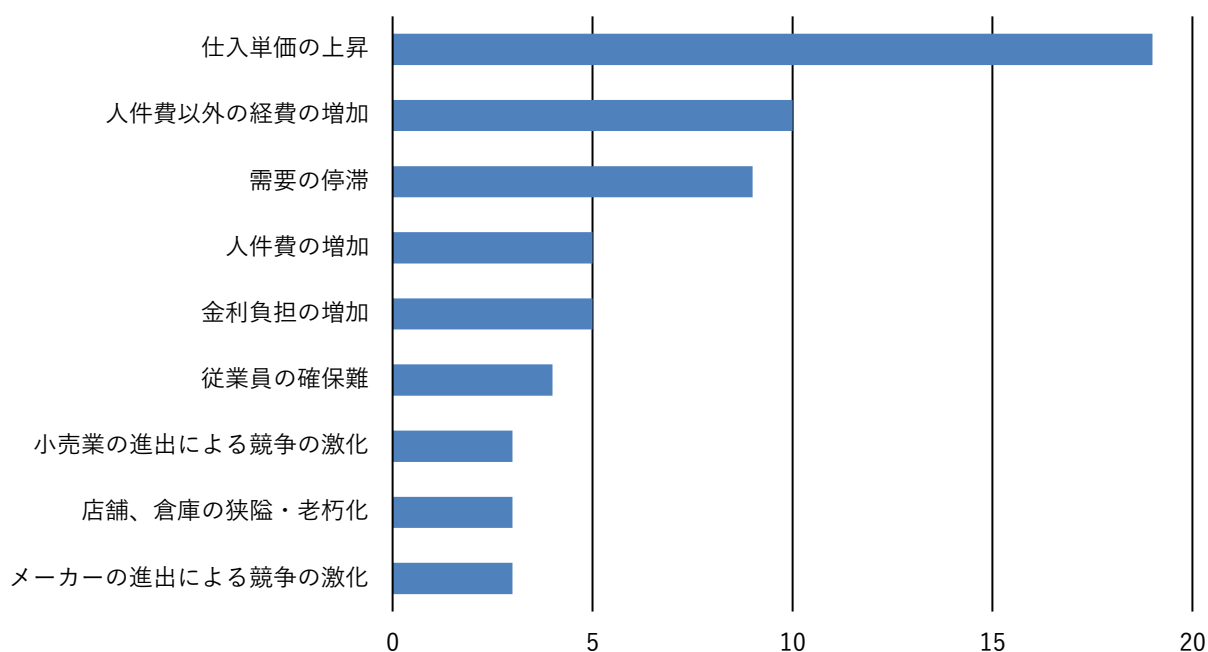
今期の設備投資は14.3%が実施と回答し、前年同期と比べ28.6%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」でした。

来期は21.4%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「需要の停滞」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 春からの中東情勢の影響で各品目の仕入単価は上昇したものの、春先の欠品は最小限に抑えられ、売上は好調に推移した。しかし、夏に入ってからは大工工事の進捗が悪く、全体として低調な状況となっている。（建築材料）
- 新幹線、泊発電所関連の工事の需要が続いている。（建築材料）
- 車両用オイル関係の品物に関して不足や欠品が目立った。（自動車部品）
- 売上額が減少した。（事務用品）
- 価格単価が増加したので売上額が増加した。（鉱物・金属材料卸売）
- 人件費が増加し業況が悪化した。（石油卸売）

[来期の業況について]

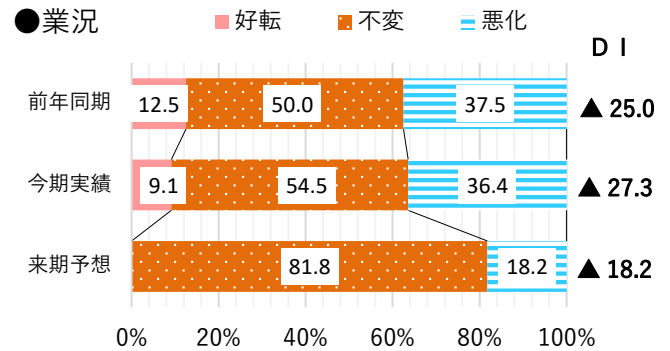
- 値上げや資材の不足等はかなり落ち着いたが全体的な物価高の影響で市況はかなり冷えこむと予想する。
（建築材料）
- 泊発電所関係の工事は継続するが、新幹線関連の工事需要が減少するので売上は減少を見込む。
（建築材料）
- 依然として引き合いも少なく苦戦は必至である。新幹線延伸の具体的なスケジュールが出てくるなどの起爆剤が欲しい。（鉱物・金属材料卸売）
- 仕入価格が安定すると予測する。（石油卸売）

小 売 業

業況、売上、採算

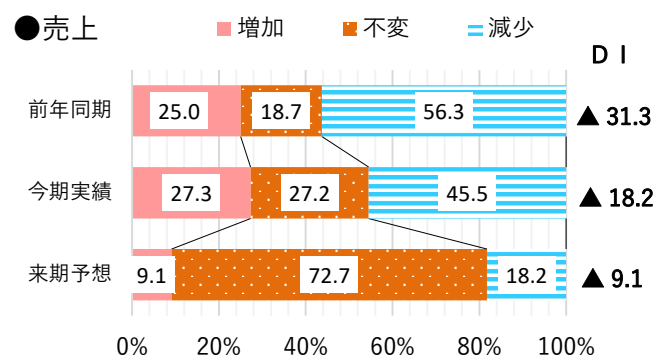
今期（2026.7～9）の業況DIは▲27.3で、前年同期（2025.7～9）と比べ2.3ポイント低下しました。

来期（2026.10～12）の業況DIは▲18.2で、今期（2026.7～9）と比べ9.1ポイント上昇すると予想しています。



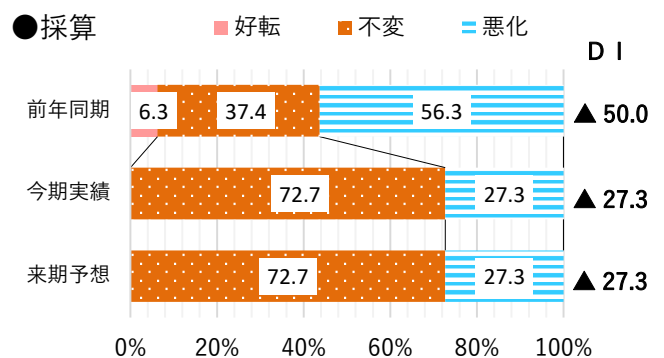
今期の売上DIは▲18.2で、前年同期と比べ13.1ポイント上昇しました。

来期の売上DIは▲9.1で、今期と比べ9.1ポイント上昇すると予想しています。

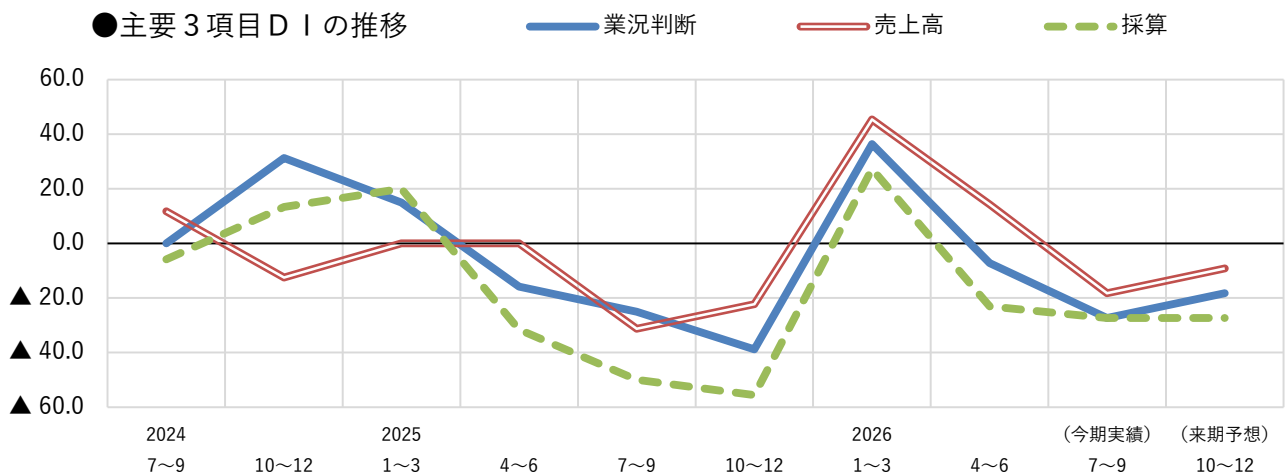


今期の採算DIは▲27.3で、前年同期と比べ22.7ポイント上昇しました。

来期の採算DIは▲27.3で、今期と比べ変化なしと予想しています。



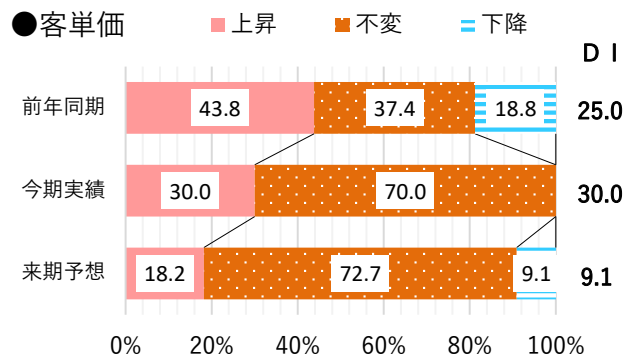
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

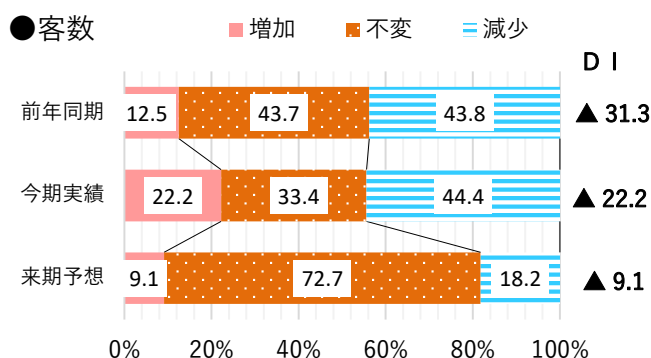
今期の客単価DIは30.0で、前年同期と比べ5.0ポイント上昇しました。

来期の客単価DIは9.1で、今期と比べ20.9ポイント低下すると予想しています。



今期の客数DIは▲22.2で、前年同期と比べ9.1ポイント上昇しました。

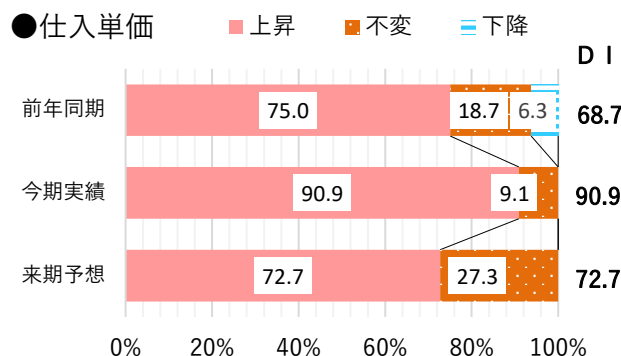
来期の客数DIは▲9.1で、今期と比べ13.1ポイント上昇すると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

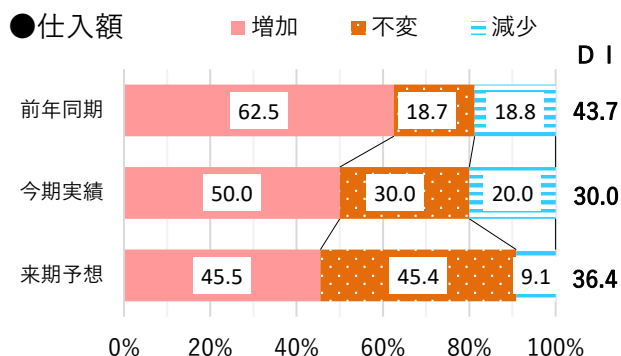
今期の仕入単価DIは90.9で、前年同期と比べ22.2ポイント上昇しました。

来期の仕入単価DIは72.7で、今期と比べ18.2ポイント低下すると予想しています。



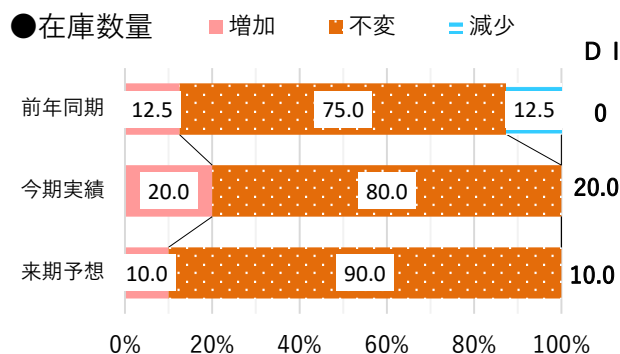
今期の仕入額DIは30.0で、前年同期と比べ13.7ポイント低下しました。

来期の仕入額DIは36.4で、今期と比べ6.4ポイント上昇すると予想しています。



今期の在庫数量DIは20.0で、前年同期と比べ20.0ポイント上昇しました。

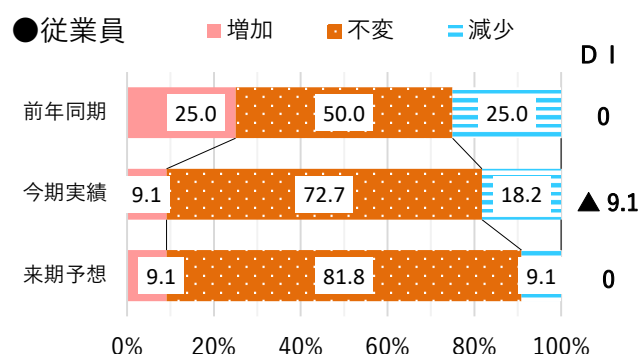
来期の在庫数量DIは10.0で、今期と比べ10.0ポイント低下すると予想しています。



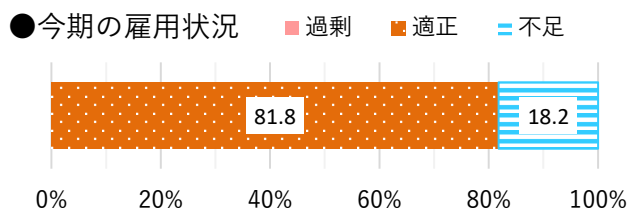
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲9.1で、前年同期と比べ9.1ポイント低下しました。

来期の従業員DIは0で、今期と比べ9.1ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は81.8%、不足していると回答した企業の割合は18.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、72.7%を占めました。

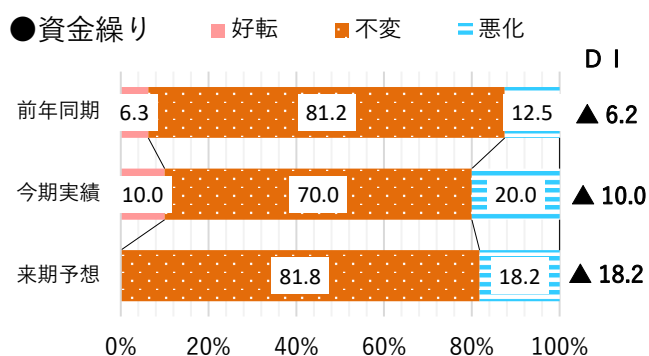
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	9.1%
不変だった	過剰	0%
	適正	72.7%
	不足	0%
減少した	過剰	0%
	適正	9.1%
	不足	9.1%

※回答総数11社

資金繰り、設備投資

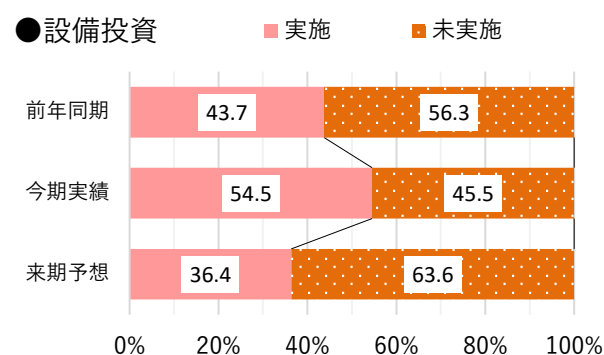
今期の資金繰りDIは▲10.0で、前年同期と比べ3.8ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは▲18.2で、今期と比べ8.2ポイント低下すると予想しています。



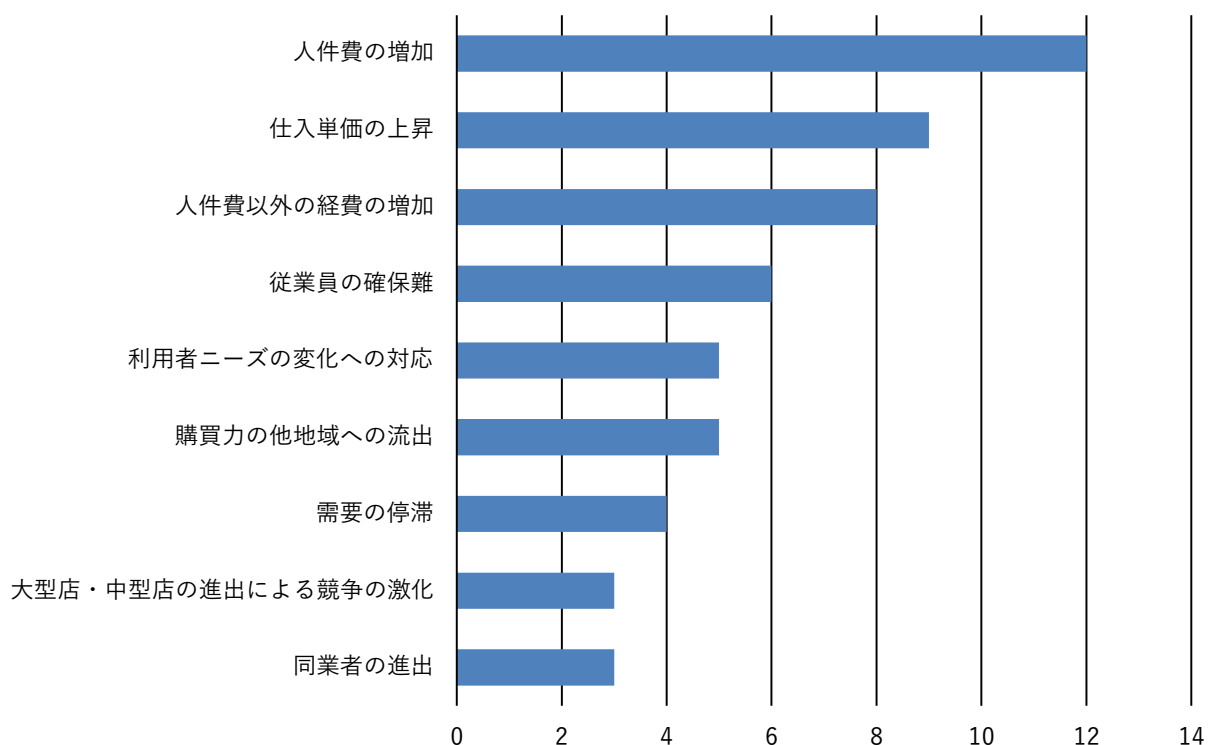
今期の設備投資は54.5%が実施と回答し、前年同期と比べ10.8%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」でした。

来期は36.4%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「人件費の増加」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 商品単価が上昇したため、来客数と売上額が減少した。人材確保は難航した。（大型店）
- 前年同期より気温が上がらなかった影響もあり、来店数が増加した。（菓子製造小売）
- オイルや部品の仕入価格が増加したが、業況は不変だった。（自動車小売）
- メーカーからの販売支援もあって売上が増加した。（自動車小売）
- 仕入価格と人件費の増加で業況が悪化した。（自動車小売）
- 売上額の減少と、仕入額の増加で業況が悪化した。（印鑑小売）

[来期の業況について]

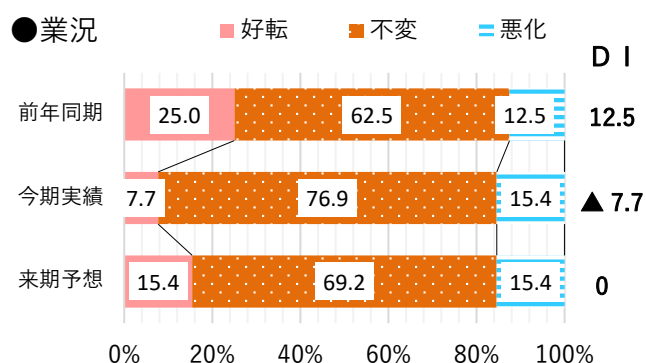
- 最低賃金が上がるので人件費が上昇し利益を圧迫すると考える。イラン情勢の影響で今後も資材の高騰が想定されるので利益の確保に頭を抱えている。（菓子製造小売）
- 最低賃金が上がったので売上額の増加がないと苦しい状況となる。（食肉小売）
- 冬タイヤの値上げを見込んでいる。（自動車小売）
- 原油価格の動向の予測が難しい。（燃料小売）

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

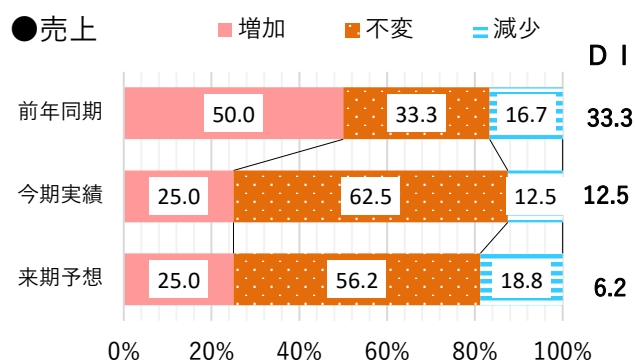
今期（2026.7～9）の業況DIは▲7.7で、前年同期（2025.7～9）と比べ20.2ポイント低下しました。

来期（2026.10～12）の業況DIは0で、今期（2026.7～9）と比べ7.7ポイント上昇すると予想しています。



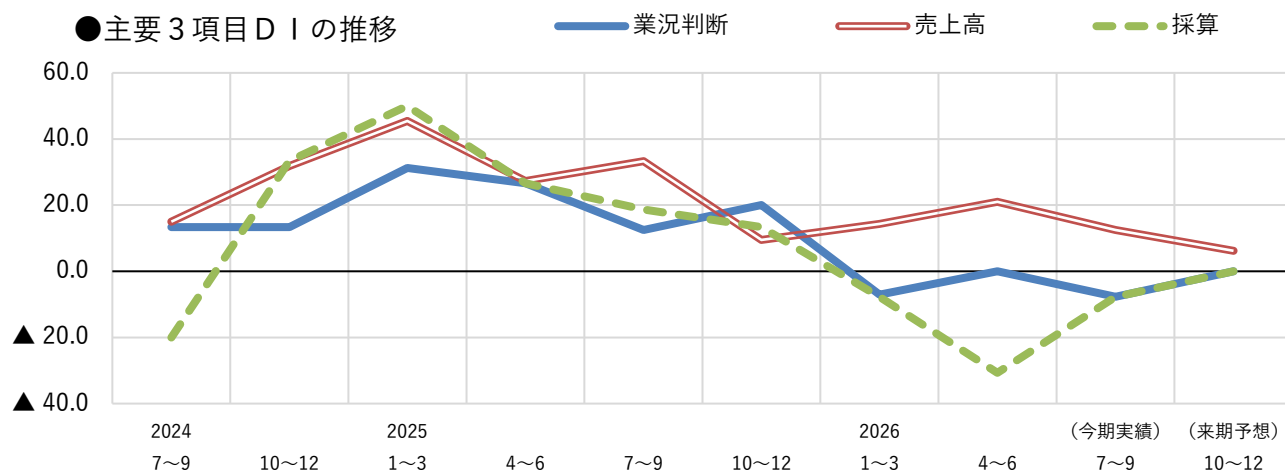
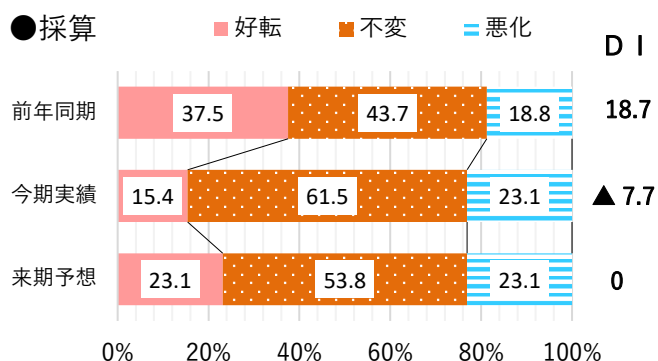
今期の売上高DIは12.5で、前年同期と比べ20.8ポイント低下しました。

来期の売上高DIは6.2で、今期と比べ6.3ポイント低下すると予想しています。



今期の採算DIは▲7.7で、前年同期と比べ26.4ポイント低下しました。

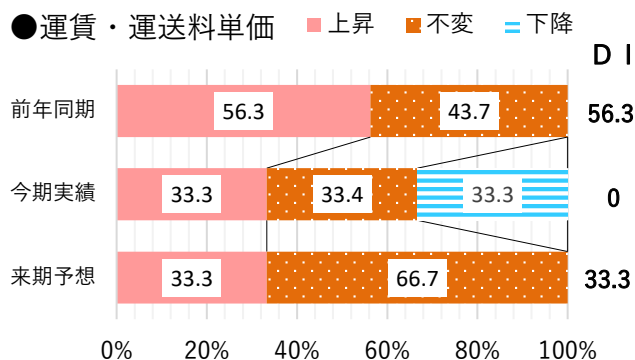
来期の採算DIは0で、今期と比べ7.7ポイント上昇すると予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

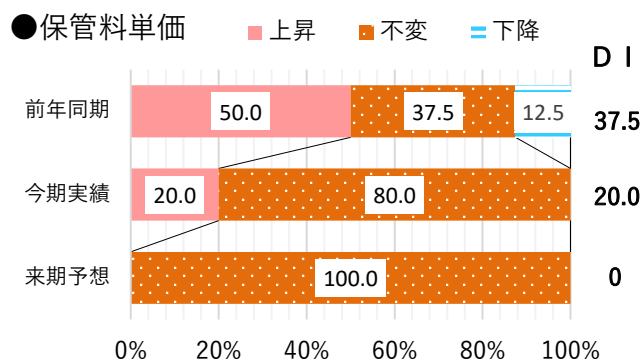
今期の運賃・運送料単価DIは0で、前年同期と比べ56.3ポイントと大幅に低下しました。

来期の運賃・運送料単価DIは33.3で、今期と比べ33.3ポイント上昇すると予想しています。



今期の保管料単価DIは20.0で、前年同期と比べ17.5ポイント低下しました。

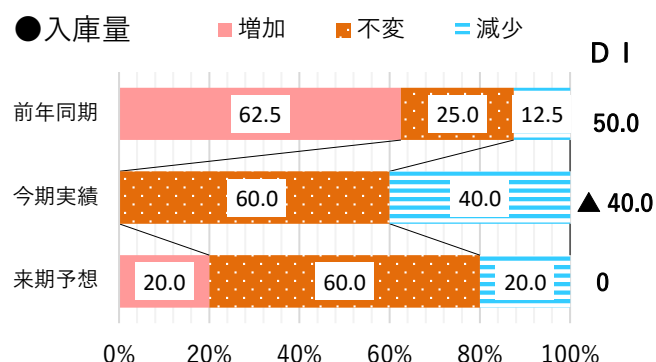
来期の保管料単価DIは0で、今期と比べ20.0ポイント低下すると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

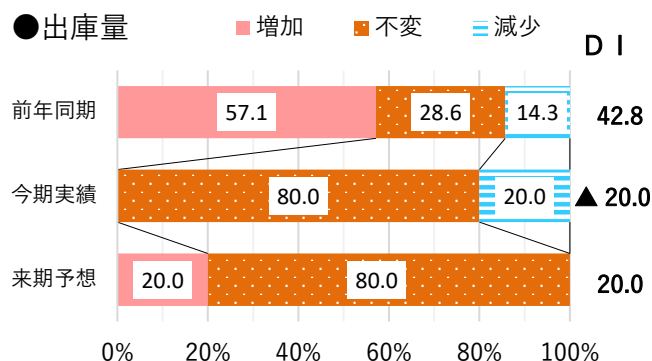
今期の入庫量DIは▲40.0で、前年同期と比べ90.0ポイントと大幅に低下しました。

来期の入庫量DIは0で、今期と比べ40.0ポイント上昇すると予想しています。



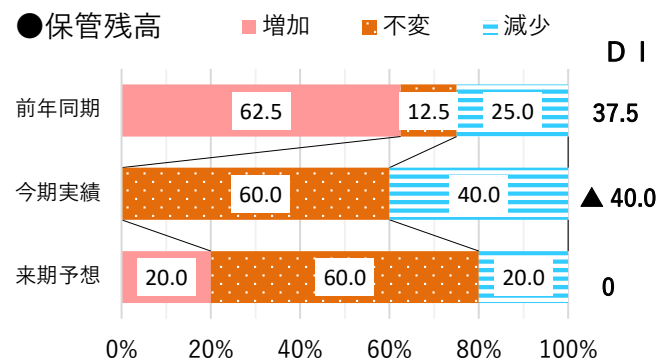
今期の出庫量DIは▲20.0で、前年同期と比べ62.8ポイントと大幅に低下しました。

来期の出庫量DIは20.0で、今期と比べ40.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の保管残高DIは▲40.0で、前年同期と比べ77.5ポイントと大幅に低下しました。

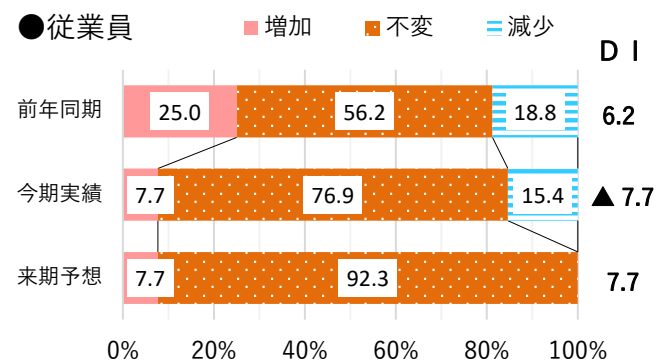
来期の保管残高DIは0で、今期と比べ40.0ポイント上昇すると予想しています。



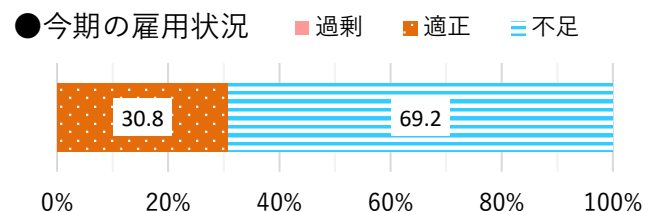
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲7.7で、前年同期と比べ13.9ポイント低下しました。

来期の従業員DIは7.7で、今期と比べ15.4ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は30.8%、不足していると回答した企業の割合は69.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足である」という回答で、46.2%を占めました。

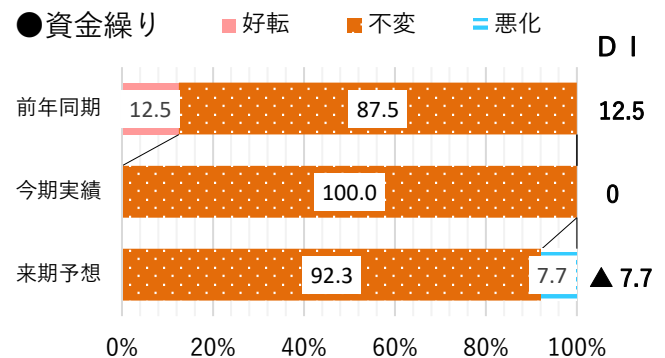
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	7.7%
不変だった	過剰	0%
	適正	30.8%
	不足	46.2%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	15.4%

※回答総数13社

資金繰り、設備投資

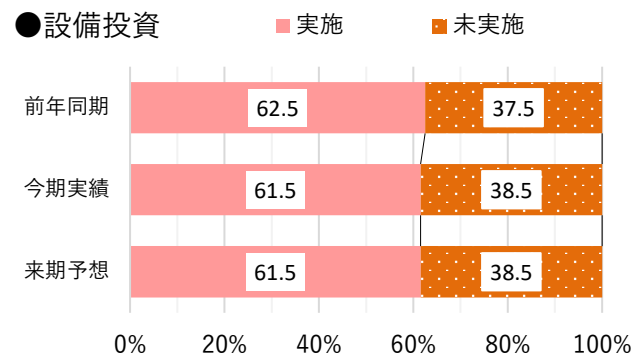
今期の資金繰りDIは0で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは▲7.7で、今期と比べ7.7ポイント低下すると予想しています。



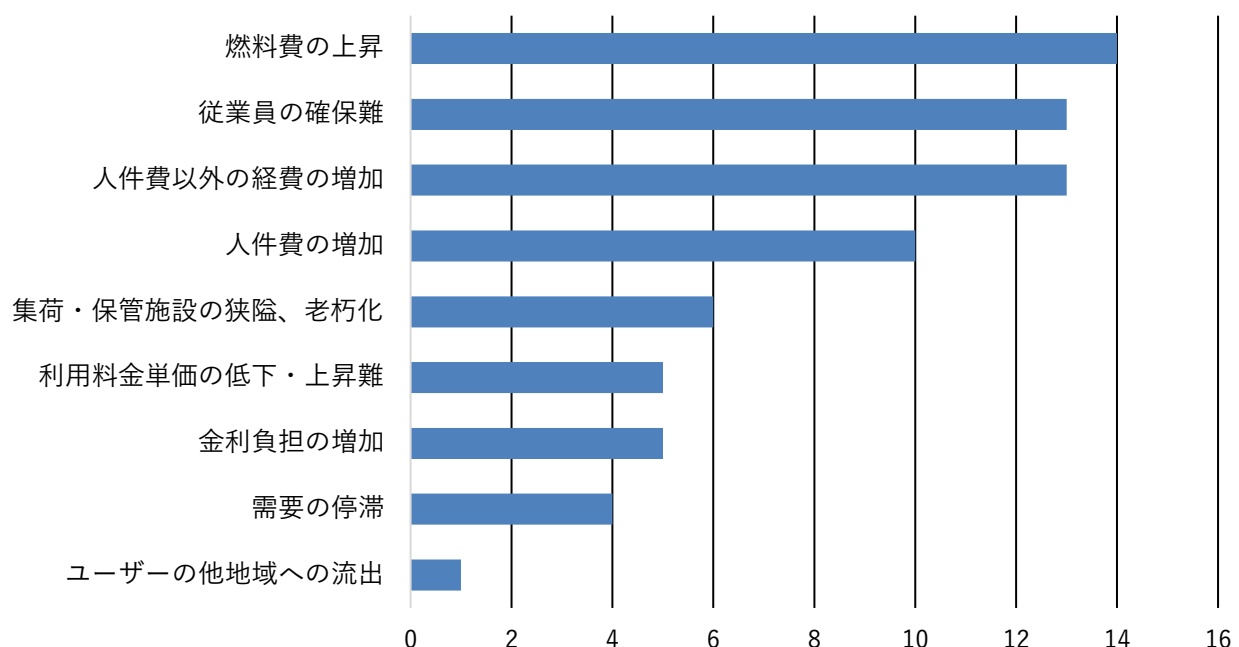
今期の設備投資は61.5%が実施と回答し、前年同期と比べ1.0%低下しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「集荷・保管施設」でした。

来期は61.5%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「従業員の確保難」「人件費以外の経費の増加」（同位）の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 市内客の需要は減少気味であるが、旅行客の需要が一定数あった。人件費などの費用の上昇が著しいので運賃単価を上昇させて対応した。（道路旅客運送）
- 利用数の減少や物価、人件費の高騰によって採算が悪化した。（道路旅客運送）
- 運搬需要の増加に伴い売上額は伸びているものの、外注費などの関連コストも増加しており、利益は大きく変わっていない。（道路貨物運送）
- 旅客数は減少したものの、運賃値上げの効果で売上は増加した。貨物は北海道の天候に恵まれ、8月以降の農産物が好調だった。人材面では退職がなく職場は安定している一方、男性職員が不足している。（水運）

[来期の業況について]

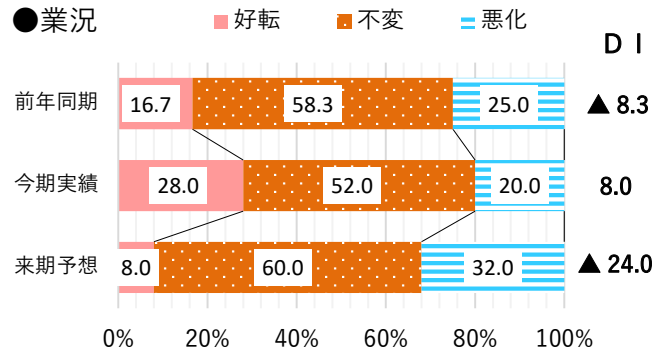
- 燃料費等の高騰が心配である。（道路旅客運送）
- 旅客は利用客数が前年並、売上は値上げ効果により増加し、人材については不変と予想する。（水運）

観光業

業況、売上、採算

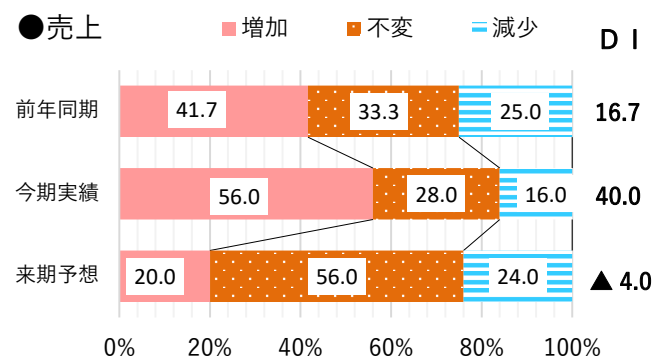
今期（2026.7～9）の業況DIは8.0で、前年同期（2025.7～9）と比べ16.3ポイント上昇しました。

来期（2026.10～12）の業況DIは▲24.0で、今期（2026.7～9）と比べ32.0ポイント低下すると予想しています。



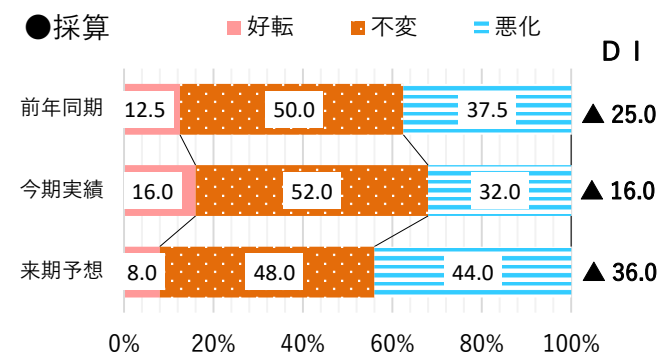
今期の売上DIは40.0で、前年同期と比べ23.3ポイント上昇しました。

来期の売上DIは▲4.0で、今期と比べ44.0ポイント低下すると予想しています。

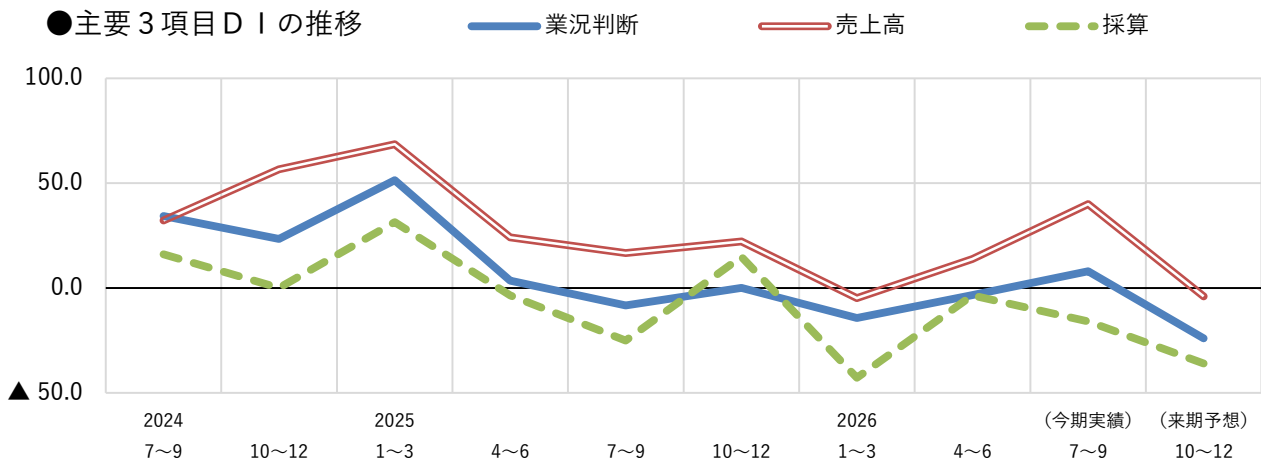


今期の採算DIは▲16.0で、前年同期と比べ9.0ポイント上昇しました。

来期の採算DIは▲36.0で、今期と比べ20.0ポイント低下すると予想しています。



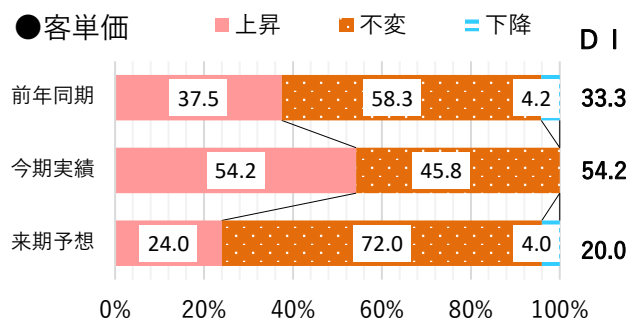
●主要3項目D Iの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

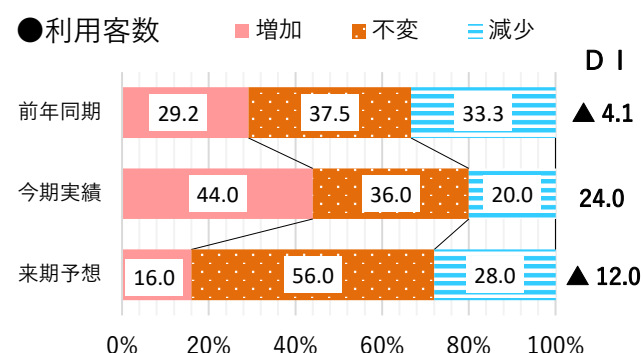
今期の客単価DIは54.2で、前年同期と比べ20.9ポイント上昇しました。

来期の客単価DIは20.0で、今期と比べ34.2ポイント低下すると予想しています。



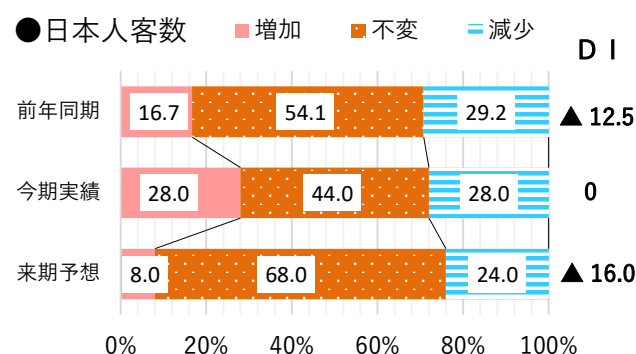
今期の利用客数DIは24.0で、前年同期と比べ28.1ポイント上昇しました。

来期の利用客数DIは▲12.0で、今期と比べ36.0ポイント低下すると予想しています。



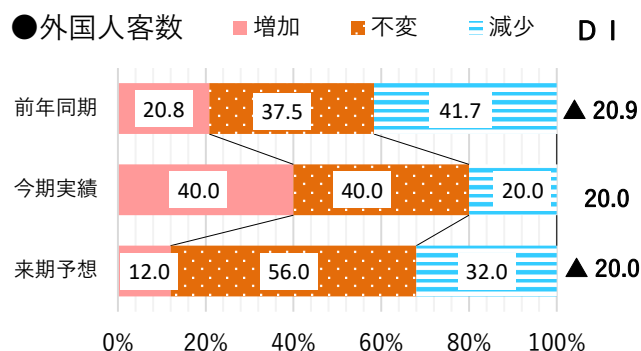
今期の日本人客数DIは0で、前年同期と比べ12.5ポイント上昇しました。

来期の日本人客数DIは▲16.0で、今期と比べ16.0ポイント低下すると予想しています。



今期の外国人客数DIは20.0で、前年同期と比べ40.9ポイントと大幅に上昇しました。

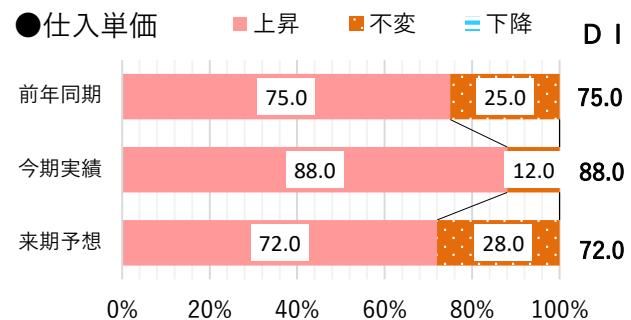
来期の外国人客数DIは▲20.0で、今期と比べ40.0ポイント低下すると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは88.0で、前年同期と比べ13.0ポイント上昇しました。

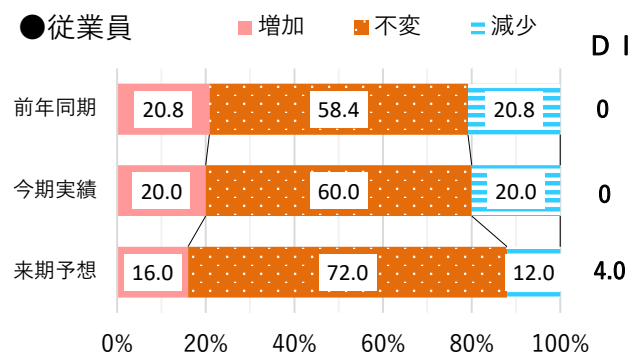
来期の仕入単価DIは72.0で、今期と比べ16.0ポイント低下すると予想しています。



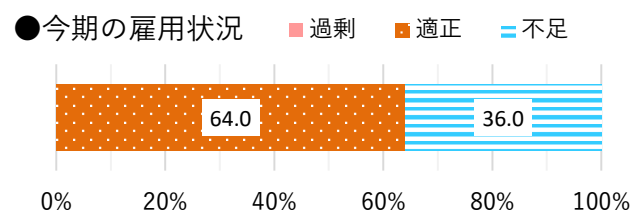
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0で、前年同期と比べ変化なしとなりました。

来期の従業員DIは4.0で、今期と比べ4.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は64.0%、不足していると回答した企業の割合は36.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、40.0%を占めました。

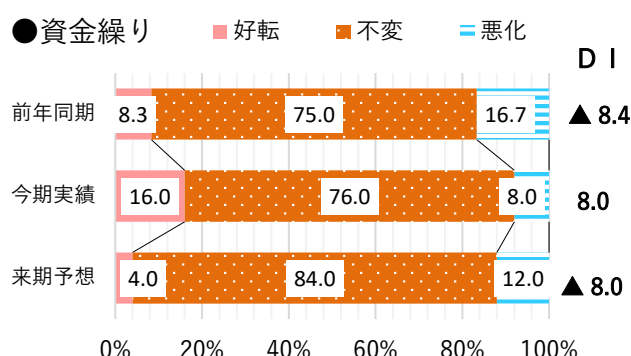
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	16.0%
	不足	4.0%
不変だった	過剰	0%
	適正	40.0%
	不足	20.0%
減少した	過剰	0%
	適正	8.0%
	不足	12.0%

※回答総数25社

資金繰り、設備投資

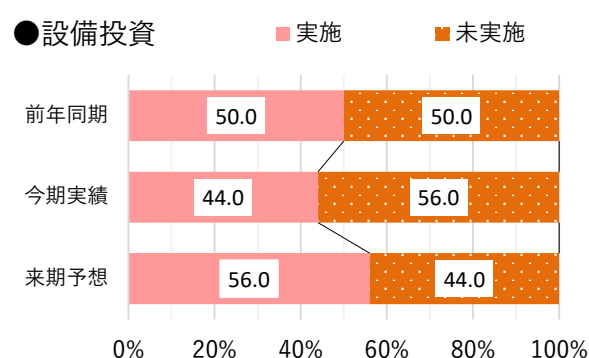
今期の資金繰りDIは8.0で、前年同期と比べ16.4ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは▲8.0で、今期と比べ16.0ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は44.0%が実施と回答し、前年同期と比べ6.0%低下しました。投資内容は、1位が「付帯施設」、2位が「建物」「サービス設備」「OA機器」（同位）でした。

来期は56.0%が設備投資を計画していると回答しています。

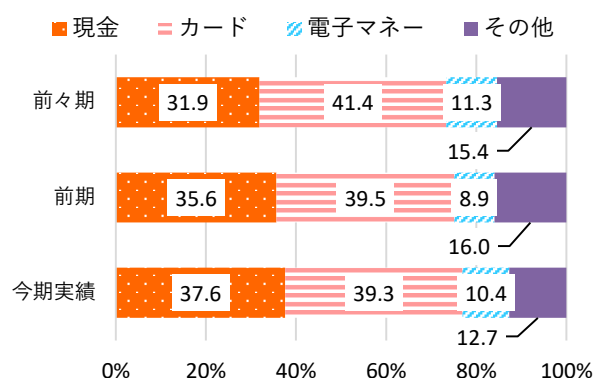


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位がカードで39.3%、2位が現金で37.6%、3位がその他で12.7%、4位が電子マネーで10.4%となりました。

その他で挙げられた決済方法は、銀行振込、売掛金、クーポン、おたるプレミアム付商品券の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

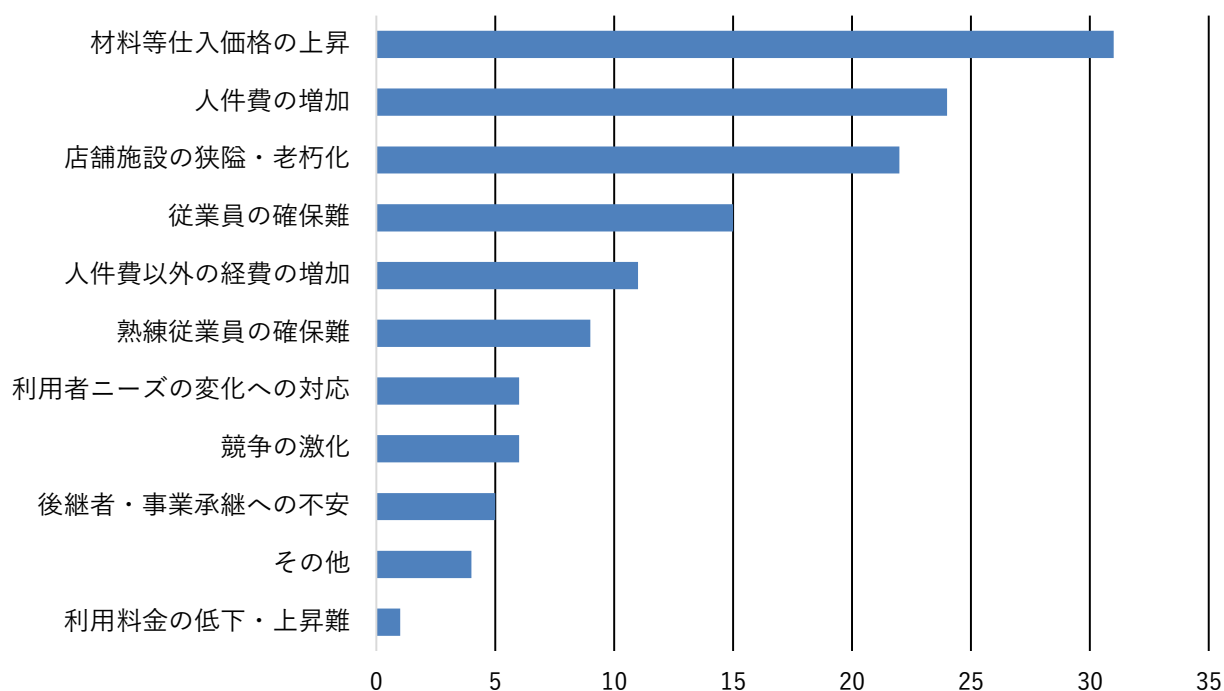


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は84.4%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 夏のうにや秋の秋刀魚、鮭など旬の食材が高値で仕入単価が上昇した。（飲食）
- 9月に入り、国内客や地元客が増加した。（飲食）
- 来店客数は国内客・外国人客ともにわずかに減少した。一方で、外国人客からは円安の影響と思われる強い購入意欲が見られ、全体的に売上単価が上昇したことで売上高は増加している。しかし、原材料価格の高騰が続いており、利益の確保は依然として難しい状況である。人材面では、社員・パートの募集に対して応募が入り始めている状況である。（土産品）
- 休みを増やした分、売上が減少した。（土産品）
- 特に状況に変化はない。（土産品）
- 仕入値と人件費が上昇したが、レンタカー料金の改定で売上は増加した。（レンタカー）
- パートの募集をしているが、問い合わせもなく難航している。（レンタカー）
- インバウンドについては、中国人客は減少したものの、アジア各国からの利用客が増加しており、全体として大きな変化はなかった。一方で、パート従業員は依然として不足している状況である。（ホテル）
- 仕入価格、賃金の上昇で業況が悪化した。（ホテル）
- 広告効果などにより、稼働が上昇した。（ホテル）
- 売上高は不変だが、材料費や人件費などが高騰しているため業況が悪化した。（社会教育）
- 天候が悪い日が多く、利用客数と売上が若干減少した。（水運業）
- 売上の減少と原価料の上昇があった。（娯楽業）

[来期の業況について]

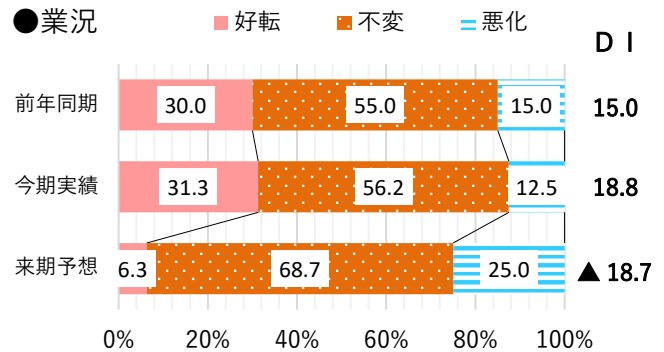
- 観光客の来店数が減少すると考えている。（飲食業）
- コロナ禍後の小樽観光ブームは一段落していると感じており、来期も国内客・外国人客ともに減少すると予想している。高価格帯製品の売行きが堅調なため、売上高は前年同期並を見込んでいるが、原材料価格の上昇により収支は依然として厳しい状況を予想する。人材面では、外国人の新規社員採用が確定しており、人手不足の解消を図りたいと考えている。一方で、来期から最低賃金が増加するため、人件費の上昇を懸念している。（土産品）
- 価格単価を上げる予定だが、最低賃金も上がるため、業況は悪化を見込む。（土産品）
- 予約件数が前年並に推移し、悪化にはならないと見込む。（レンタカー）
- 世界情勢の変化がホテル業界に影響を及ぼさないことを願っている。（ホテル）
- 来期は今期に比べ営業期間が短いため、売上が減少し、支出は前年より増加を見込んでいるので業況の悪化を予想する。（社会教育）
- 冬期の閑散期に入るため、客数と売上のどちらも減少が見込まれる。（水運業）

サービス業

業況、売上、採算

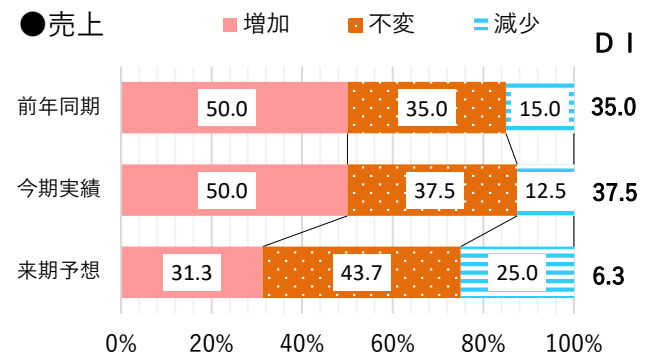
今期（2026.7～9）の業況DIは18.8で、前年同期（2025.7～9）と比べ3.8ポイント上昇しました。

来期（2026.10～12）の業況DIは▲18.7で、今期（2026.7～9）と比べ37.5ポイント低下すると予想しています。



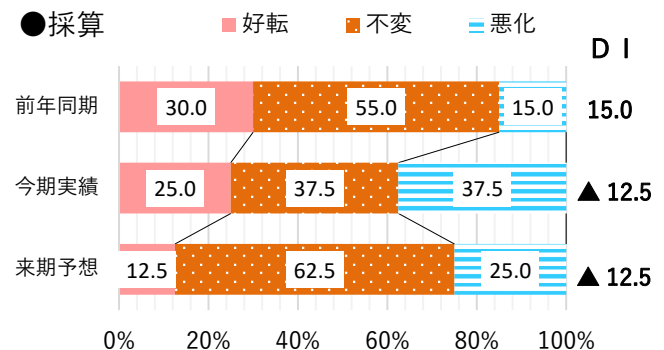
今期の売上DIは37.5で、前年同期と比べ2.5ポイント上昇しました。

来期の売上DIは6.3で、今期と比べ31.2ポイント低下すると予想しています。

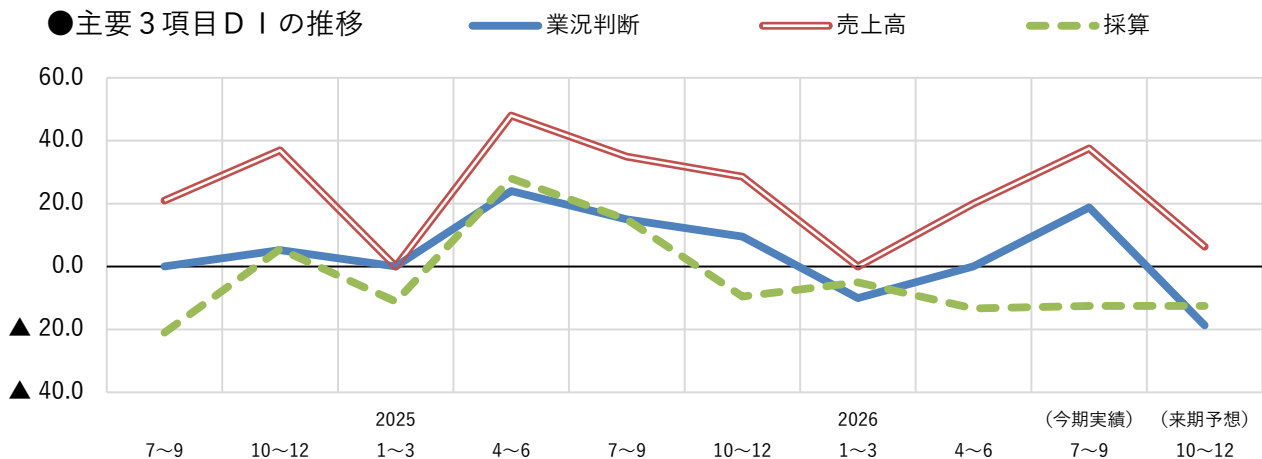


今期の採算DIは▲12.5で、前年同期と比べ27.5ポイント低下しました。

来期の採算DIは▲12.5で、今期と比べ変化なしと予想しています。



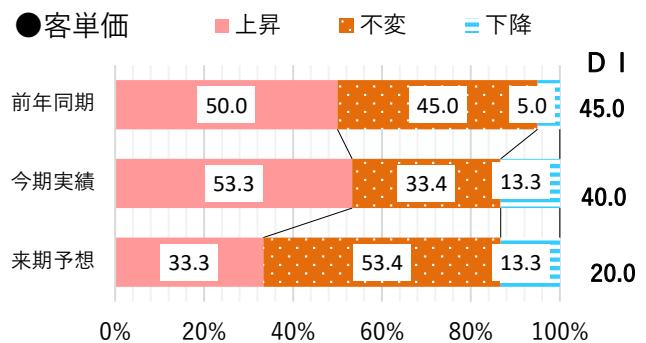
●主要3項目D Iの推移



客単価、利用客数、仕入単価

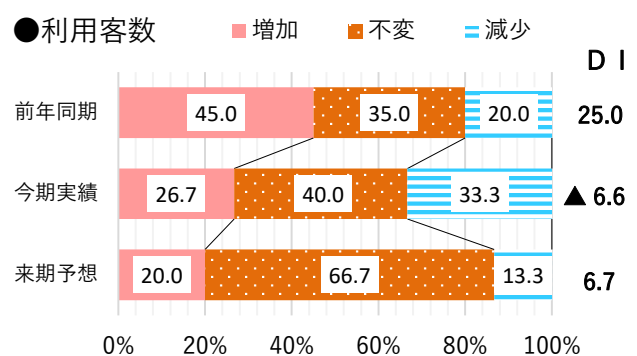
今期の客単価DIは40.0で、前年同期と比べ5.0ポイント低下しました。

来期の客単価DIは20.0で、今期と比べ20.0ポイント低下すると予想しています。



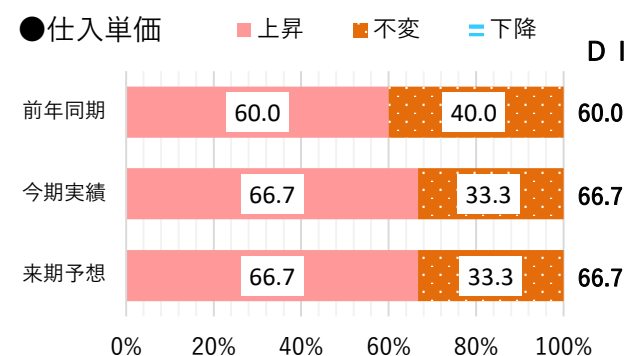
今期の利用客数DIは▲6.6で、前年同期と比べ31.6ポイントと大幅に低下しました。

来期の利用客数DIは6.7で、今期と比べ13.3ポイント上昇すると予想しています。



今期の仕入単価DIは66.7で、前年同期と比べ6.7ポイント上昇しました。

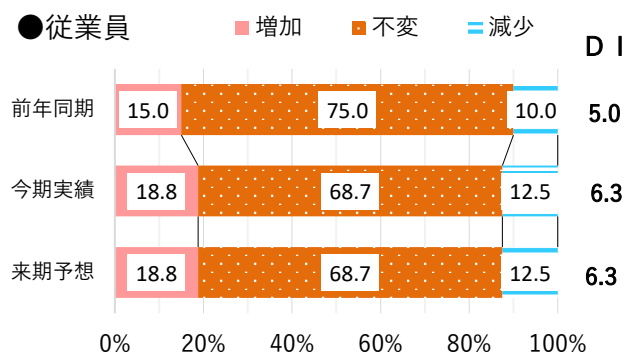
来期の仕入単価DIは66.7で、今期と比べ変化なしと予想しています。



従業員、今期の雇用状況

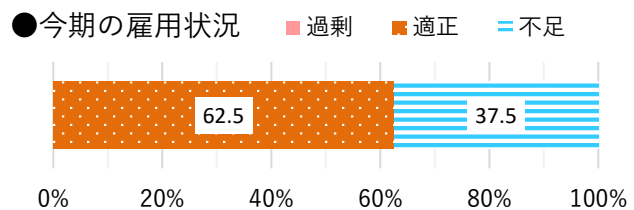
今期の従業員DIは6.3で、前年同期と比べ1.3ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは6.3で、今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は62.5%、不足していると回答した企業の割合は37.5%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、43.8%を占めました。



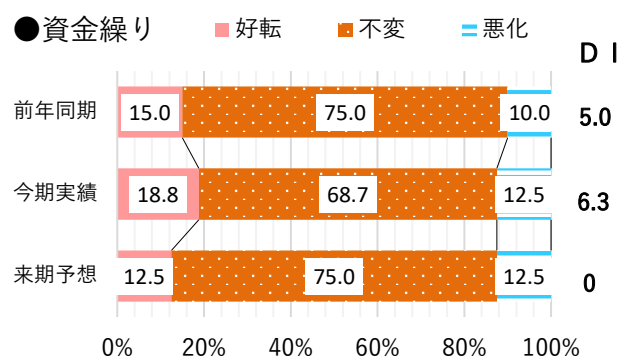
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	12.5%
	不足	6%
不変だった	過剰	0%
	適正	43.8%
	不足	25.0%
減少した	過剰	0%
	適正	6.3%
	不足	6.3%

※回答総数16社

資金繰り、設備投資

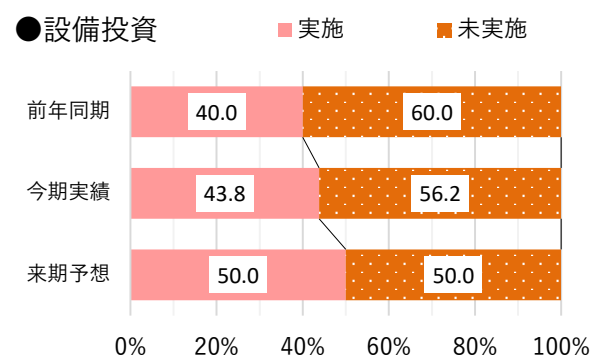
今期の資金繰りDIは6.3で、前年同期と比べ1.3ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは0で、今期と比べ6.3ポイント低下すると予想しています。



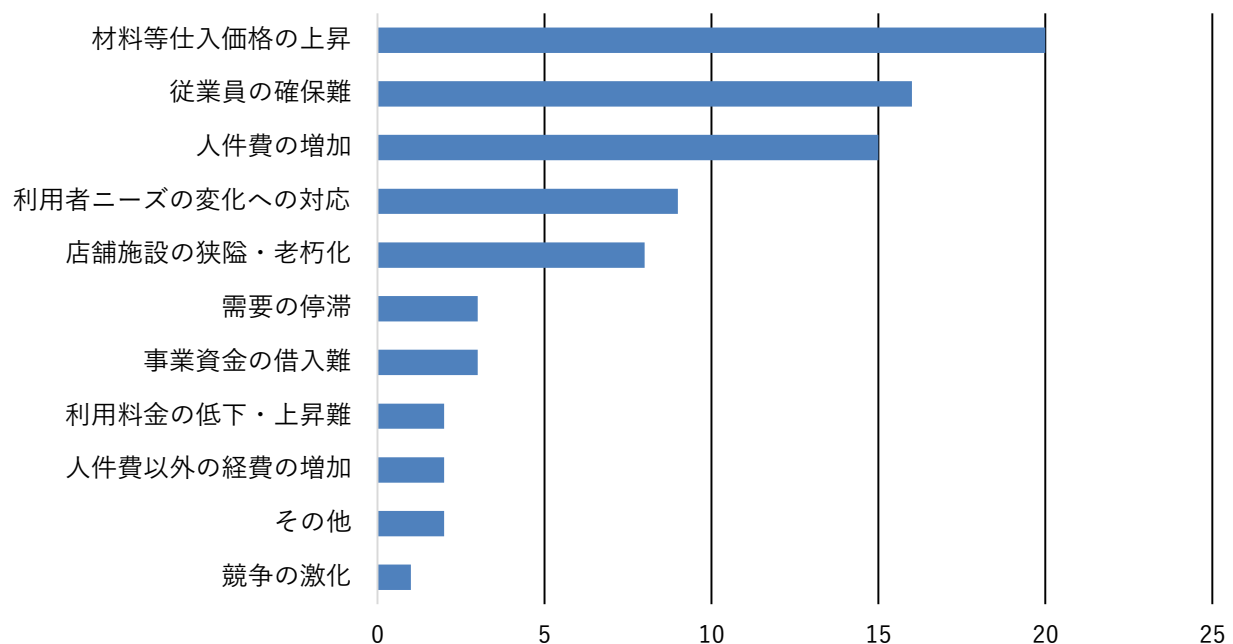
今期の設備投資は43.8%が実施と回答し、前年同期と比べ3.8%上昇しました。投資内容は、1位「車両運搬具」、2位が「サービス設備」「付帯施設」（同位）でした。

来期は50.0%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 夏の繁忙期で利用客数が多く売上は上昇したが、魚介類などの仕入値の増加で利益率はそれほどでもない。（飲食店）
- 第3四半期からの前倒しの収入増加により売上が増加した。（ビルメンテナンス）
- 売上額が減少し、仕入価格が毎月上昇しているので利益が出にくい状況である。（写真業）
- 売上は新規顧客の獲得及び値上げ効果もあり増加したが、病院や施設の統廃合があり、採算は不変であった。（各種物品賃貸業）
- 売上、仕入価格がともに増加した。また、AI導入により人材確保の必要性が減少した。（情報処理・提供サービス業）
- 客単価、利益率が向上したため業況が好転した。（情報処理・提供サービス業）
- 新規紹介客が多数いた事とおたるプレミアム付商品券の効果で売上が上昇したが、仕入価格の増加も止まらない。（美容業）
- 来場者数の増加に伴い売上が増加した。（スポーツ施設）

[来期の業況について]

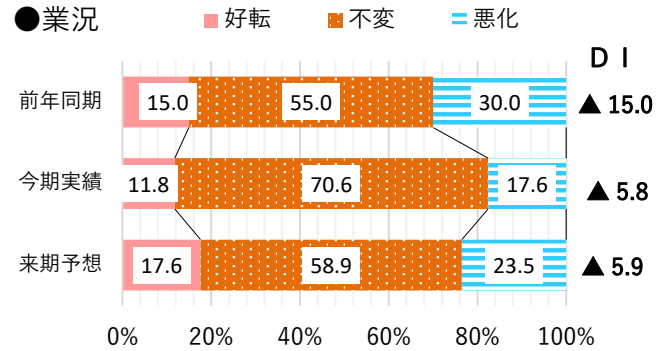
- 第2四半期へ前倒しした収入の影響と最低賃金上昇の影響で売上が低下した。（ビルメンテナンス）
- 来期は年末なので年賀状の印刷で売上額が増加すると見込んでいる。（写真業）
- 売上は増加予定で、仕入価格は今期増加したので不変と予想する。（各種物品賃貸業）
- 仕入価格、最低賃金の増加の影響で業況の悪化を予想している。（廃棄物処理業）
- ものづくり補助金を用いた設備投資により対応可能な業務が増え、さらなる客単価の増加が見込む。（情報処理・提供サービス業）
- おたるプレミアム付商品券の使用期間がまだ残っていることに加え、年末は例年予約が埋まるため売上は増加すると予想している。（美容業）

建設業

業況、売上、採算

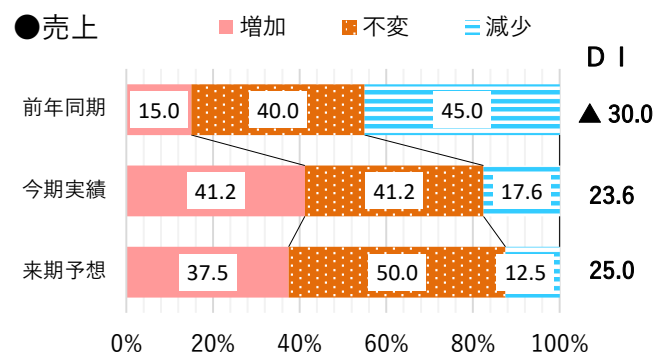
今期（2026.7～9）の業況DIは▲5.8で、前年同期（2025.7～9）と比べ9.2ポイント上昇しました。

来期（2026.10～12）の業況DIは▲5.9で、今期（2026.7～9）と比べ0.1ポイント低下すると予想しています。



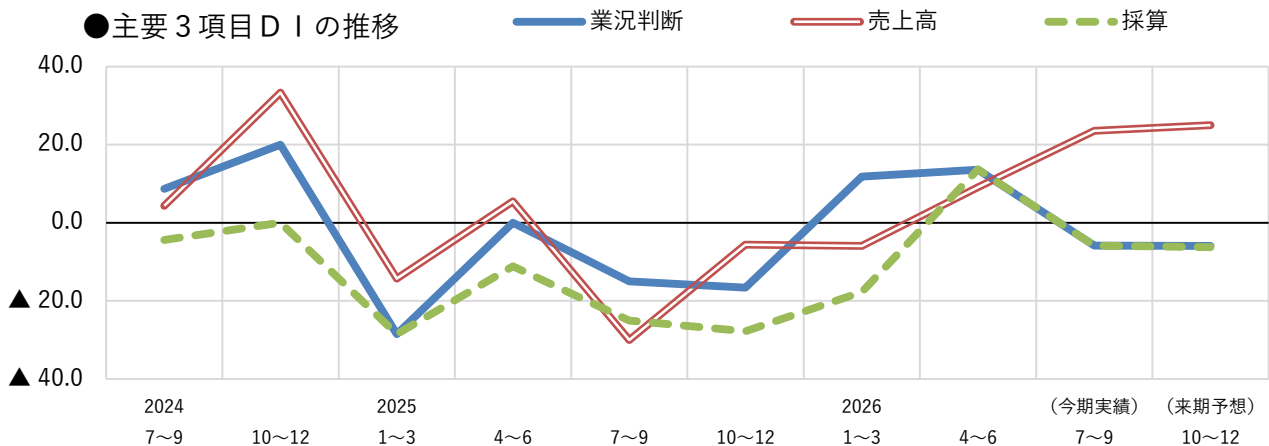
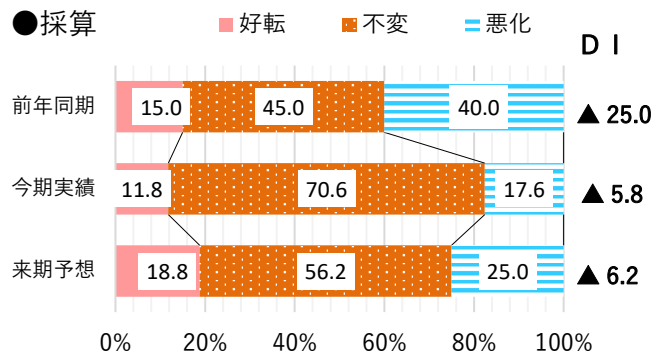
今期の売上DIは23.6で、前年同期と比べ53.6ポイントと大幅に上昇しました。

来期の売上DIは25.0で、今期と比べ1.4ポイント上昇すると予想しています。



今期の採算DIは▲5.8で、前年同期と比べ19.2ポイント上昇しました。

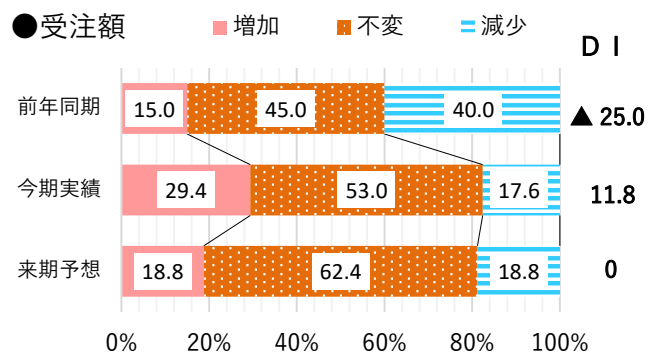
来期の採算DIは▲6.2で、今期と比べ0.4ポイント低下すると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

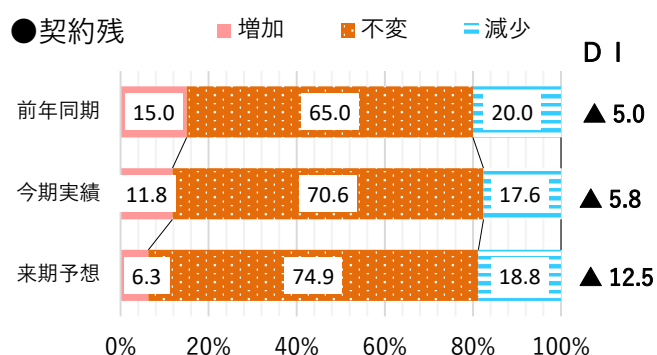
今期の受注額DIは11.8で、前年同期と比べ36.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期の受注額DIは0で、今期と比べ11.8ポイント低下すると予想しています。



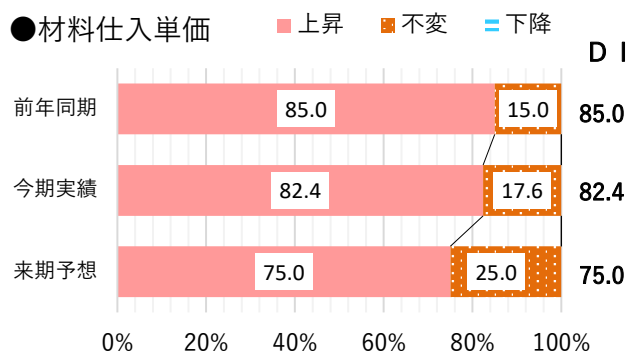
今期の契約残DIは▲5.8で、前年同期と比べ0.8ポイント低下しました。

来期の契約残DIは▲12.5で、今期と比べ6.7ポイント低下すると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは82.4で、前年同期と比べ2.6ポイント低下しました。

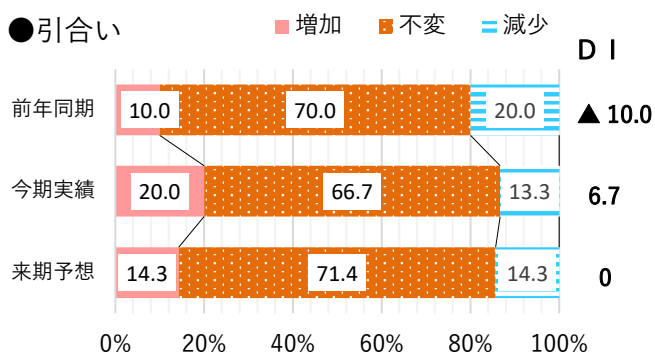
来期の材料仕入単価DIは75.0で、今期と比べ7.4ポイント低下すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは6.7で、前年同期と比べ16.7ポイント上昇しました。

来期の引合いDIは0で、今期と比べ6.7ポイント低下すると予想しています。



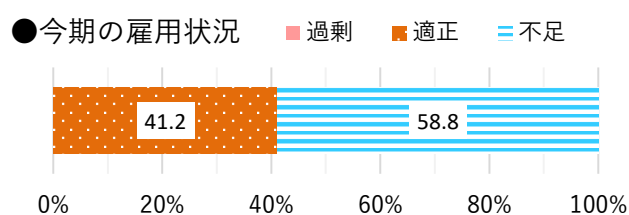
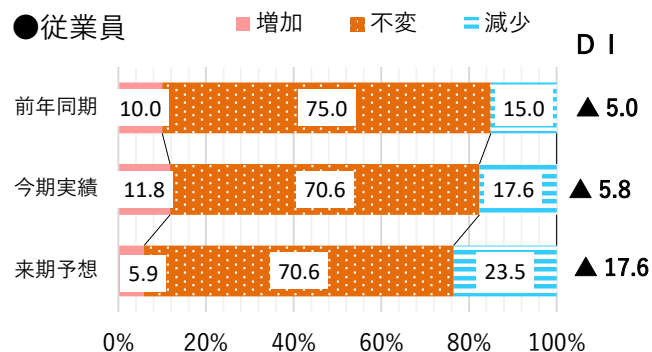
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.8で、前年同期と比べ0.8ポイント低下しました。

来期の従業員DIは▲17.6で、今期と比べ11.8ポイント低下すると予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は41.2%、不足していると回答した企業の割合は58.8%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、41.2%を占めました。



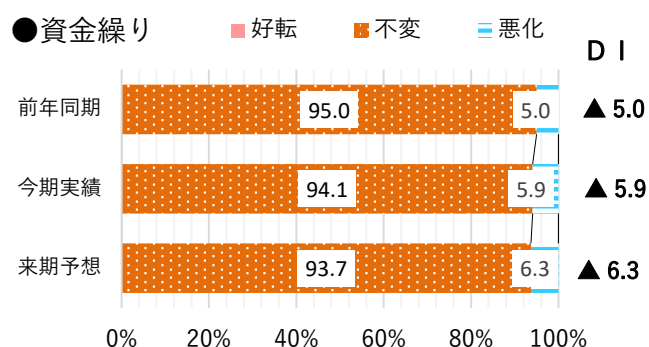
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	11.8%
不変だった	過剰	0%
	適正	41.2%
	不足	29.4%
減少した	過剰	0%
	適正	0%
	不足	17.6%

※回答総数17社

資金繰り、設備投資

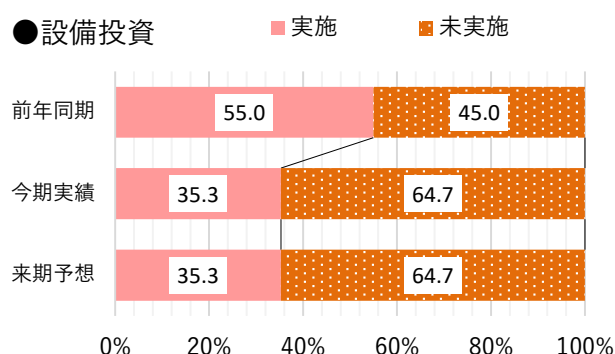
今期の資金繰りDIは▲5.9で、前年同期と比べ0.9ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは▲6.3で、今期と比べ0.4ポイント低下すると予想しています。



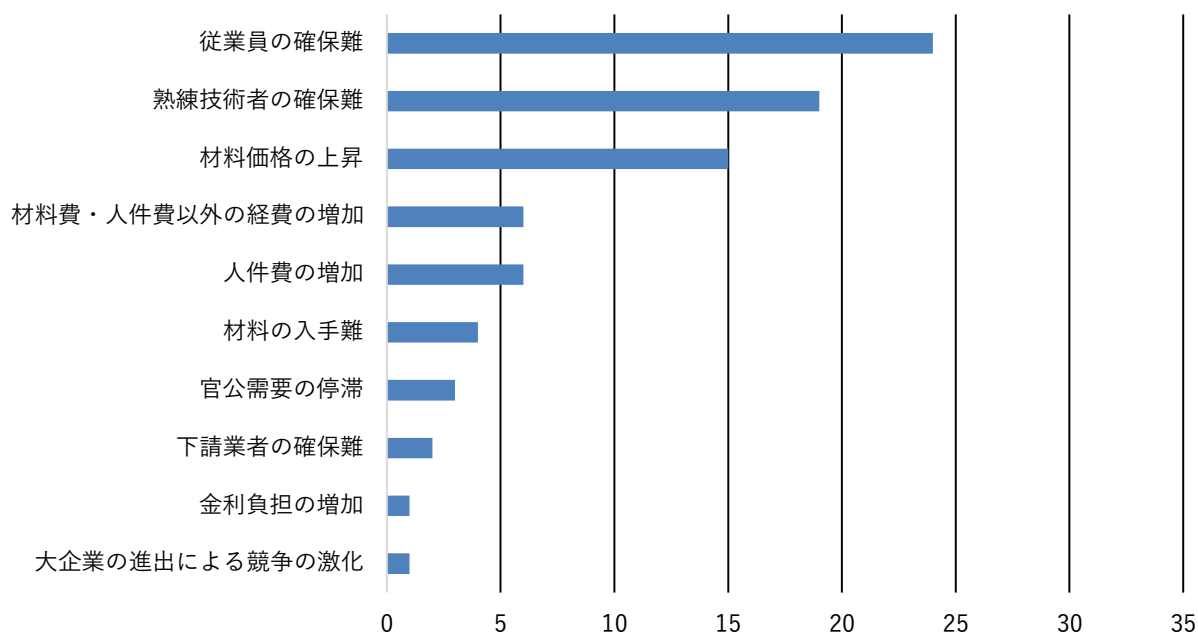
今期の設備投資は35.3%が実施と回答し、前年同期と比べ19.7%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」「福利厚生」（同位）、2位が「建物」「建設機械」「OA機器」（同位）でした。

来期は35.3%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「熟練技術者の確保難」、3位が「材料価格の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 技術者の確保が課題である。（一般土木工事業）
- 人材確保が課題である。（一般土木工事業）
- 大きな変化はない。（造園業）
- 完成工事が前年より多く、売上が増加した。（一般管工事業）

[来期の業況について]

- 就職活動のピークを迎えるので一人でも多くの内定者を確保したい。（一般土木工事業）
- 売上等の好転は期待できない。（造園業）
- 年内の完成予定工事が多いため売上の増加を見込む。（一般管工事業）

市内企業倒産状況

2026年7月~9月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は1件、前年同期比不変
負債総額は1,000万円、前年同期比不変

倒産件数		負債総額	
1件		1,000万円	
前年同期比	件数 ±0件 (前年同期 1件)	負債 ±0円 (前年同期 1,000万円)	
■7月 とび・土工工事（負債1,000万円：販売不振による破産）の1件が発生した。			
■8月 なし			
■9月 なし			

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2026年7月~9月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は44件、前年同期比減少
新設着工住宅戸数は37棟37戸、前年同期比減少

建築確認申請受付件数		新設着工住宅戸数	
44		37棟37戸	
前年同期比	件数 -7件 (前年同期 51件)	戸数 ±0棟-7戸 (前年同期 37棟44戸)	
※変更確認又は変更通知を除く。			